

御殿場市「市民協働型まちづくりに関する調査」【市民編】結果

調査票を巻末に掲載しました。

1. 回答状況

- ・市民 2,040 人（年齢層および男女数を均等に、地区は人口比に基づき抽出）を対象に調査票を郵送し、計 817 名の回答を得た（回答率 40.0%）。
- ・回答率は、地区別に見ると御殿場地区では 46%と高く、玉穂地区では 29%とやや低かった。
- ・年代別では、年齢層が高いほど回答率も高く、60代以上では 54%にも達していた。
- ・男女別では、女性が 41%、男性が 30%で女性が高くなっていた。

表1 アンケート回答状況

		回答数	発送数	回答率
全体		817	2,040	40.0%
地区別	御殿場	369	800	46.1%
	富士岡	146	400	36.5%
	原里	125	400	31.3%
	玉穂	77	260	29.6%
	印野	22	60	36.7%
	高根	43	120	35.8%
	不明	35		
年代別	20代	103	408	25.2%
	30代	136	408	33.3%
	40代	155	408	38.0%
	50代	174	408	42.6%
	60代以上	221	408	54.2%
	不明	28		
男女別	男性	308	1,020	30.2%
	女性	426	1,020	41.8%
	不明	83		

2. フェイスシート（回答者の属性）

1) 居住地域

- ・「御殿場地区」が 45%と最も多かった。

2) 居住年数

- ・「5年未満」「20～30年」「30～50年」が多く、ともに 20%強ずつを占めていた。

3) 年齢

- ・年齢は、「60代以上」が 27%、「50代」が 21%であり、50代以上が半数近くを占めた。
- ・20代、30代はやや少なかった。

4) 性別

- ・女性が 52%、男性が 37%であり、女性が多かった。

表2 居住地域

	回答数	割合%
御殿場	369	45.2
富士岡	146	17.9
原里	125	15.3
玉穂	77	9.4
印野	22	2.7
高根	43	5.3
不明	35	4.3
合計	817	100

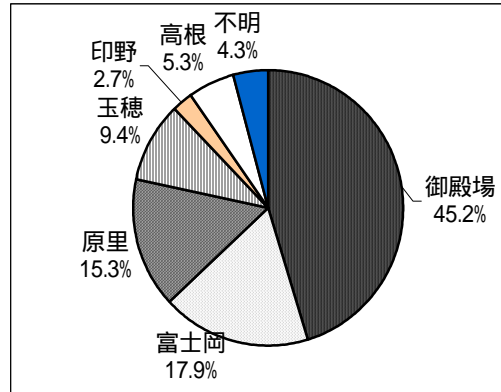


表3 居住年数

	回答数	割合%
5年未満	190	23.3
5年～10年未満	77	9.4
10年～20年未満	111	13.6
20年～30年未満	175	21.4
30年～50年未満	177	21.7
50年以上	64	7.8
不明	23	2.8
合計	817	100.0

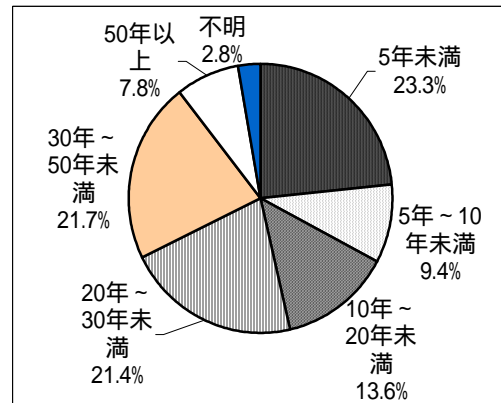


表4 年齢

	回答数	割合%
20代	103	12.6
30代	136	16.6
40代	155	19.0
50代	174	21.3
60代以上	221	27.1
不明	28	3.4
合計	817	100.0

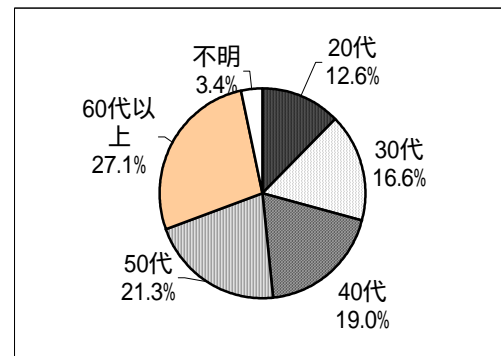
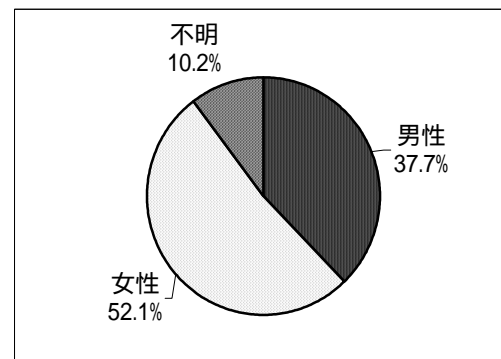


表5 性別

	回答数	割合%
男性	308	37.7
女性	426	52.1
不明	83	10.2
合計	817	100.0



3. 地域活動への参加状況

・地域活動（区・組など）への参加状況は、「たまに参加する」が41%で最も多かった。「よく参加する」も26%であり、合わせると67%の人が何らかの形で地域活動に参加していることがわかった。

【地区別】 「印野地区」「高根地区」など人口の少ない地区で参加率が80%以上と高かった。

【居住年数別】 年数が長いほど参加率が高くなるという傾向が見られた。一方5年未満の場合は、参加率は50%をきっていた。

【年代別】 年齢層が高いほど参加率は高かった。40代以上と、30代以下の参加の度合いに大きな差が見られた。

【男女別】 男性の場合「よく参加する」割合が高く、地域活動については、男性のほうがやや積極的に参加している状況がうかがえた。

表6 地域活動(区・組など)への参加状況

		よく参加する	たまに参加する	ほとんど参加しない	参加したことがない	活動がない・知らない	不明	合計
全体	回答数	218	340	131	90	30	8	817
	割合%	26.7	41.6	16.0	11.0	3.7	1.0	100.0

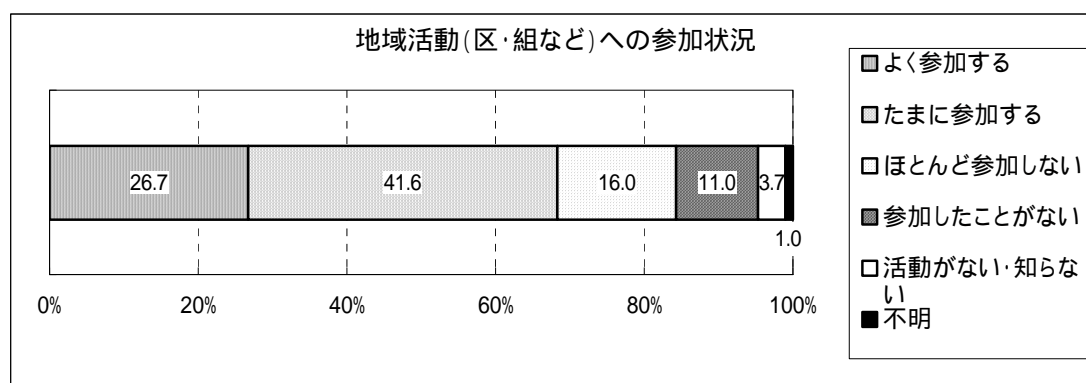


表6-1 地域活動(区・組など)への参加状況(地区別)

		よく参加する	たまに参加する	ほとんど参加しない	参加したことがない	活動がない・知らない	不明	合計
御殿場	回答数	85	146	66	55	16	1	369
	割合%	23.0	39.6	17.9	14.9	4.3	0.3	100.0
富士岡	回答数	37	71	20	12	6	-	146
	割合%	25.3	48.6	13.7	8.2	4.1	-	100.0
原里	回答数	37	53	18	14	3	-	125
	割合%	29.6	42.4	14.4	11.2	2.4	-	100.0
玉穂	回答数	18	38	15	4	1	1	77
	割合%	23.4	49.4	19.5	5.2	1.3	1.3	100.0
印野	回答数	14	6	2	-	-	-	22
	割合%	63.6	27.3	9.1	-	-	-	100.0
高根	回答数	20	15	5	3	-	-	43
	割合%	46.5	34.9	11.6	7.0	-	-	100.0
不明	回答数	7	11	5	2	4	6	35
	割合%	20.0	31.4	14.3	5.7	11.4	17.1	100.0

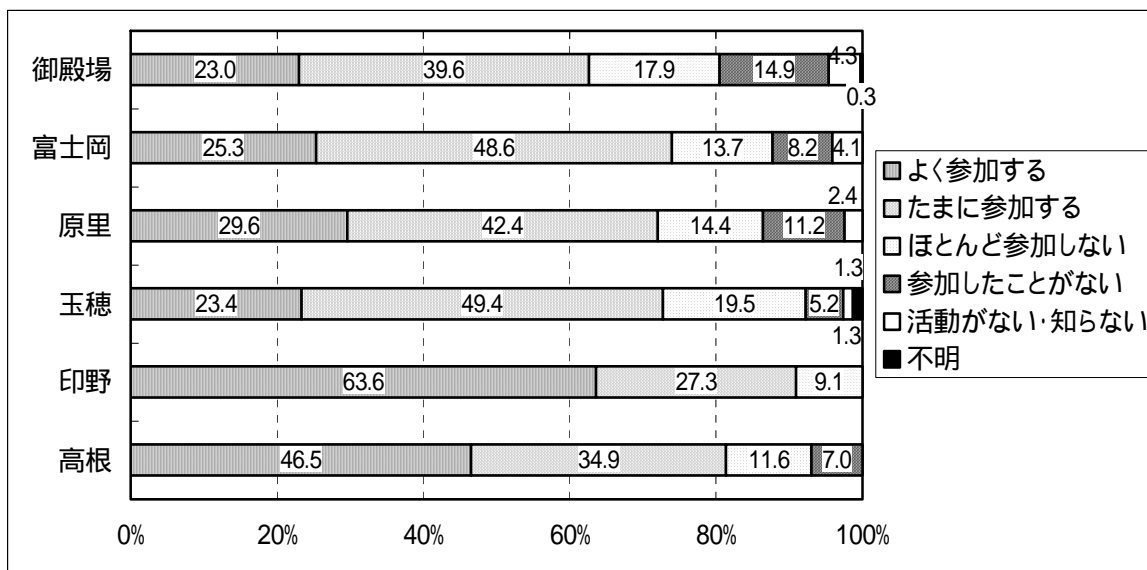


表6-2 地域活動(区・組など)への参加状況(居住年数別)

		よく参加する	たまに参加する	ほとんど参加しない	参加したことがない	活動がない・知らない	不明	合計
		回答数	21	68	30	53	18	-
5年未満	割合%	11.1	35.8	15.8	27.9	9.5	-	100.0
5年～10年未満	回答数	14	32	17	10	3	1	77
	割合%	18.2	41.6	22.1	13.0	3.9	1.3	100.0
10年～20年未満	回答数	28	51	19	8	5	-	111
	割合%	25.2	45.9	17.1	7.2	4.5	-	100.0
20年～30年未満	回答数	56	72	37	9	1	-	175
	割合%	32.0	41.1	21.1	5.1	0.6	-	100.0
30年～50年未満	回答数	59	82	22	9	3	2	177
	割合%	33.3	46.3	12.4	5.1	1.7	1.1	100.0
50年以上	回答数	32	27	5	-	-	-	64
	割合%	50.0	42.2	7.8	-	-	-	100.0
不明	回答数	8	8	1	1	-	5	23
	割合%	34.8	34.8	4.3	4.3	-	21.7	100.0

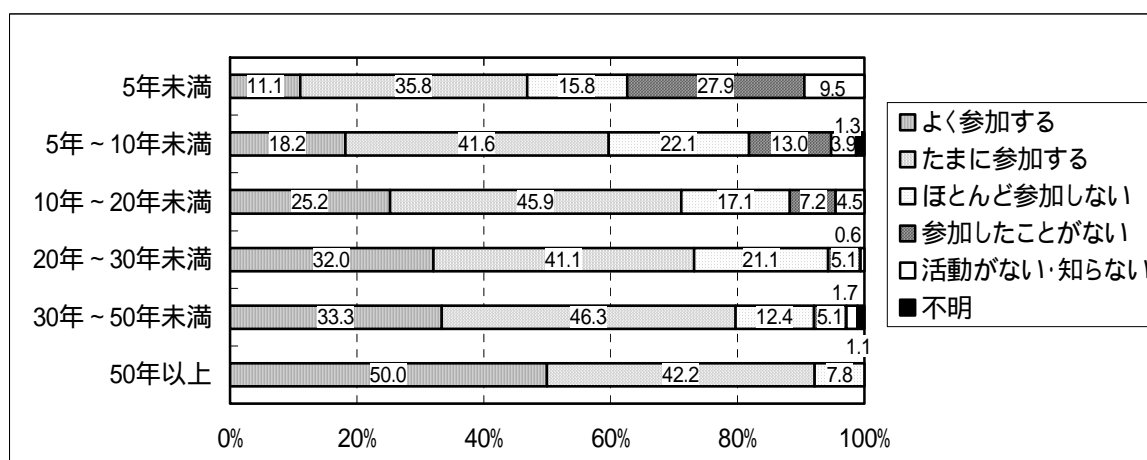


表6-3 地域活動(区・組など)への参加状況(年代別)

		よく参加する	たまに参加する	ほとんど参加しない	参加したことがない	活動がない・知らない	不明	合計
20代	回答数	7	27	28	30	11	-	103
	割合%	6.8	26.2	27.2	29.1	10.7	-	100.0
30代	回答数	22	58	25	26	4	1	136
	割合%	16.2	42.6	18.4	19.1	2.9	0.7	100.0
40代	回答数	48	67	30	10	-	-	155
	割合%	31.0	43.2	19.4	6.5	-	-	100.0
50代	回答数	53	78	24	12	7	-	174
	割合%	30.5	44.8	13.8	6.9	4.0	-	100.0
60代以上	回答数	81	101	21	9	7	2	221
	割合%	36.7	45.7	9.5	4.1	3.2	0.9	100.0
不明	回答数	7	9	3	3	1	5	28
	割合%	25.0	32.1	10.7	10.7	3.6	17.9	100.0

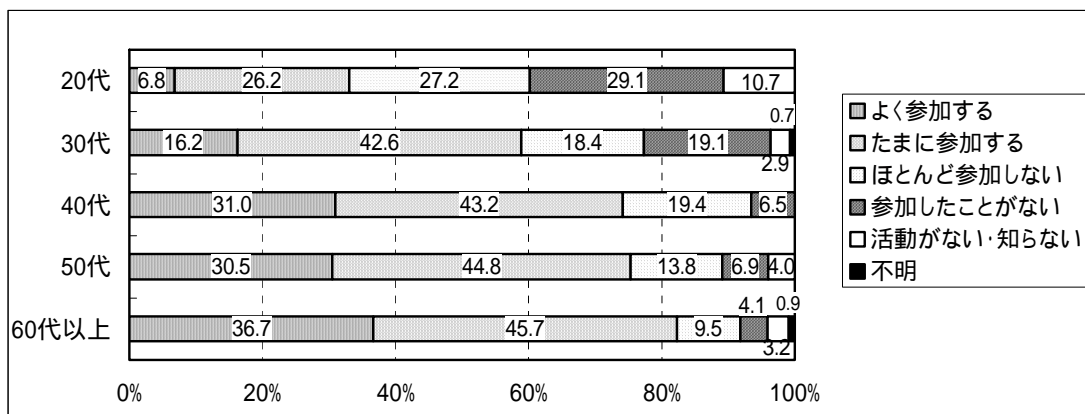
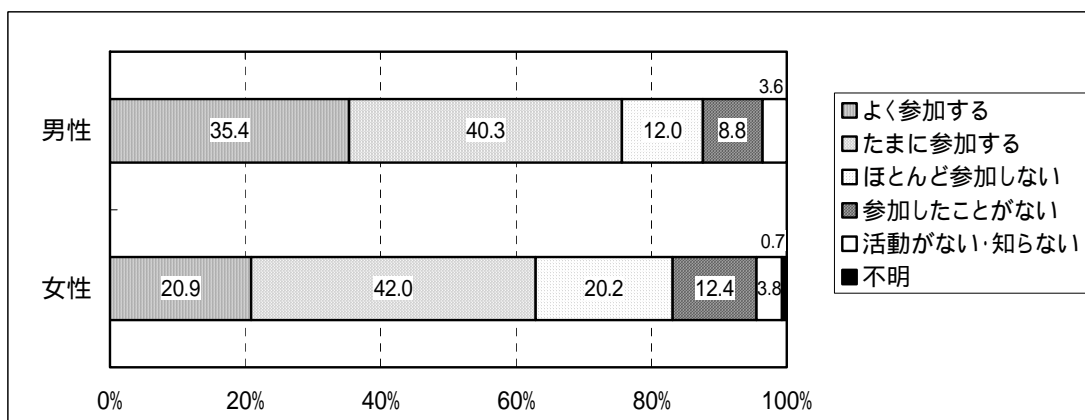


表6-4 地域活動(区・組など)への参加状況(男女別)

		よく参加する	たまに参加する	ほとんど参加しない	参加したことがない	活動がない・知らない	不明	合計
男性	回答数	109	124	37	27	11	-	308
	割合%	35.4	40.3	12.0	8.8	3.6	-	100.0
女性	回答数	89	179	86	53	16	3	426
	割合%	20.9	42.0	20.2	12.4	3.8	0.7	100.0
不明	回答数	20	37	8	10	3	5	83
	割合%	24.1	44.6	9.6	12.0	3.6	6.0	100.0



4. 地域活動で必要なこと

1) 地域活動を進める上で大切なこと

- ・「普段からの近所付き合いを深めること」が56%で最も高かった。
- ・次いで「住民一人一人が意識を持つこと」51%、「地域活動の情報を積極的に住民に提供すること」47%、「若年層の参加を増やすこと」40%が多かった。
- ・近所付き合いや一人一人の意識など、自分の身近なところが大切だという声が多いようである。

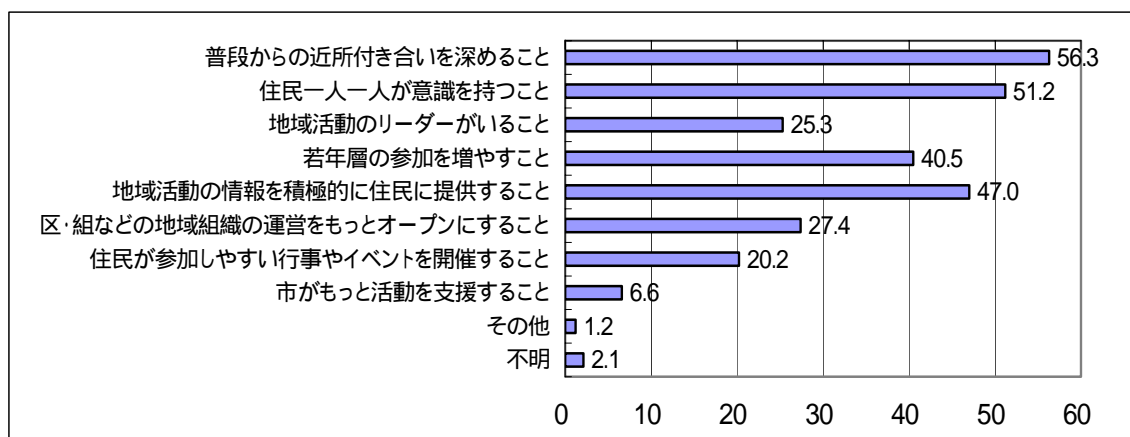
2) 住民主体のまちづくりのために、市全体で必要なこと

- ・「地域のリーダーの育成や、まちづくりの担い手となる人材を増やす」が43%で最も高かった。市全体で人材育成が必要だという声が多いことがわかった。
- ・次いで「行政が地域組織の支援や育成を図る」が39%であった。

表7 地域活動の上で大切だと思うこと

(複数回答)

	回答数	割合%
普段からの近所付き合いを深めること	460	56.3
住民一人一人が意識を持つこと	418	51.2
地域活動のリーダーがいること	207	25.3
若年層の参加を増やすこと	331	40.5
地域活動の情報を積極的に住民に提供すること	384	47.0
区・組などの地域組織の運営をもっとオープンにすること	224	27.4
住民が参加しやすい行事やイベントを開催すること	165	20.2
市がもっと活動を支援すること	54	6.6
その他	10	1.2
不明	17	2.1
合計	817	100.0

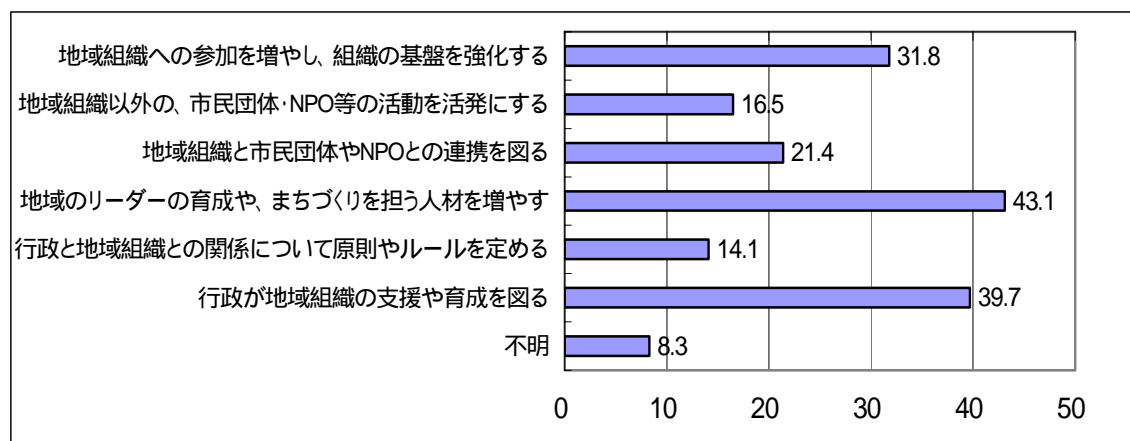


【その他の回答】

- ・新戸と旧戸の考えの違いを互いに押しつけないで話し合うこと
- ・古い区の考えを変えて欲しい ・義務付けが必要 ・相談出来るシステム作り
- ・文書ではなく直接人が声を掛ける ・区、組などの組織存在の必要性、重要性を示すこと
- ・定期的かつ継続的に住民から意見聴取を行い、それを公開して問題意識や情報の共有を図る
- ・地元民で固まっている為、コミュニティに入りづらい。他県から来た人も参加しやすい工夫が必要
- ・住民の望んでいることを行政側が知ること
- ・忙しい時代なので活動内容を考える必要あり。働いている人は日曜までは負担と思う人も多い。

表8 住民主体のまちづくりを進めるため、市全体として必要なこと (複数回答)

	回答数	割合%
地域組織への参加を増やし、組織の基盤を強化する	260	31.8
地域組織以外の、市民団体・NPO等の活動を活発にする	135	16.5
地域組織と市民団体やNPOとの連携を図る	175	21.4
地域のリーダーの育成や、まちづくりを担う人材を増やす	352	43.1
行政と地域組織との関係について原則やルールを定める	115	14.1
行政が地域組織の支援や育成を図る	324	39.7
不明	68	8.3
合計	817	100.0

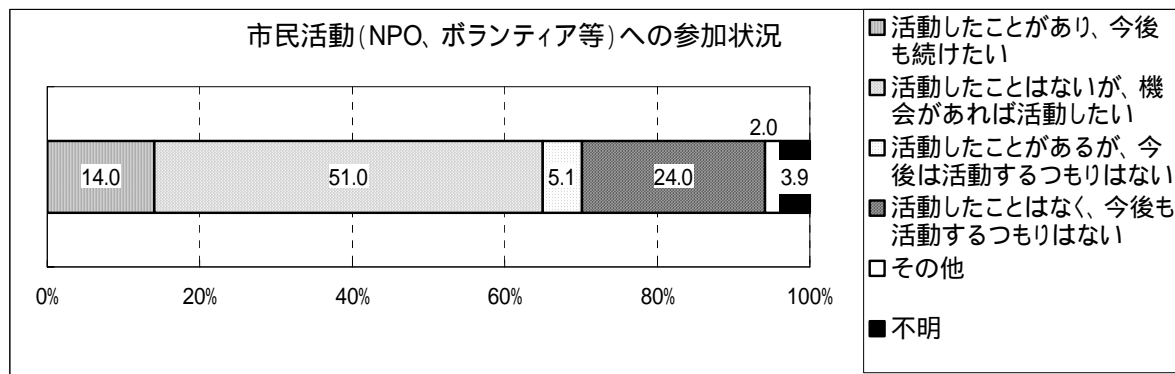


5 . 市民活動 (N P O ・ ボランティア活動等) への参加状況

- ・市民活動 (N P O ・ ボランティア活動等) への参加状況は、「活動したことはないが、機会があれば活動したい」が 51% で最も多かった。今はやってないが活動したいという意欲が高い状況がうかがえる。
 - ・「活動したことがあり今後も続けたい」は 14% であり、上と合わせると 65% の人が N P O 活動への参加意向があることがわかった。
 - ・一方で、「活動したことはなく、今後も活動するつもりはない」は 24% を占めていた。
- 【地区別】 地域活動と同様、「印野地区」「高根地区」で「活動したことがある」割合が高い。
- 【居住年数別】 年数が長いほど、「活動したことがある」割合は高い。一方、「機会があれば活動したい」割合は、「5～10 年未満」で 70% と高く、活動意欲が高いことがわかった。
- 【年代別】 特に 50 代以上の参加意向が高い。一方 20 代と 30 代は、「今後も活動するつもりはない」の割合が 4 割近くと高くなっている。
- 【男女別】 男性の場合「活動したことがある」割合が高く、女性に比べやや参加意向が高い状況がうかがえた。

表9 市民活動(NPO、ボランティア等)への参加状況

		活動したことがあり、今後も続けたい	活動したことはないが、機会があれば活動したい	活動したことがあるが、今後は活動するつもりはない	活動したことはなく、今後も活動するつもりはない	その他	不明	合計
		全体	回答数	114	417	42	196	16
	割合%	14.0	51.0	5.1	24.0	2.0	3.9	100.0



【その他の回答】

- ・活動したことはあるが、今後は内容次第では活動してもよい
- ・活動する時期が来たらやってみたい ・高齢なので無理だと思う
- ・仕事が忙しく参加する時間が持てない ・情報が全くないのでボランティアに出ることも出来ない

表9-1 市民活動(NPO、ボランティア等)への参加状況(地区別)

		活動したことがあり、今後も続けたい	活動したことはないが、機会があれば活動したい	活動したことがあるが、今後は活動するつもりはない	活動したことはなく、今後も活動するつもりはない	その他	不明	合計
		御殿場	回答数	46	188	20	99	7
	割合%	12.5	50.9	5.4	26.8	1.9	2.4	100.0
富士岡	回答数	17	72	7	43	3	4	146
	割合%	11.6	49.3	4.8	29.5	2.1	2.7	100.0
原里	回答数	20	68	6	23	2	6	125
	割合%	16.0	54.4	4.8	18.4	1.6	4.8	100.0
玉穂	回答数	12	42	2	13	4	4	77
	割合%	15.6	54.5	2.6	16.9	5.2	5.2	100.0
印野	回答数	6	9	1	5	-	1	22
	割合%	27.3	40.9	4.5	22.7	-	4.5	100.0
高根	回答数	8	23	3	7	-	2	43
	割合%	18.6	53.5	7.0	16.3	-	4.7	100.0
不明	回答数	5	15	3	6	-	6	35
	割合%	14.3	42.9	8.6	17.1	-	17.1	100.0

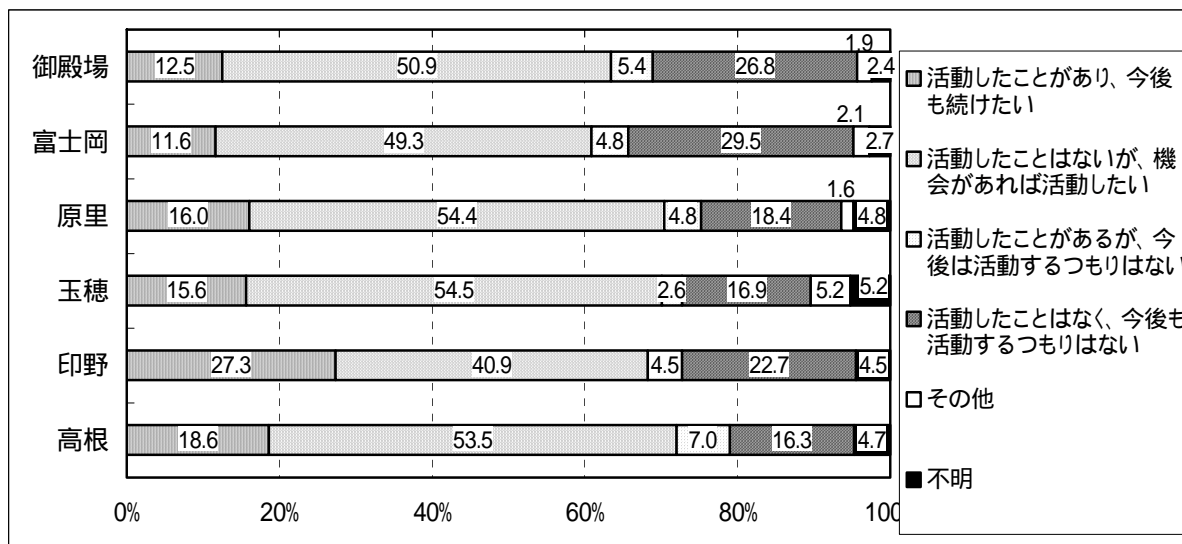


表9-2 市民活動(NPO、ボランティア等)への参加状況(居住年数別)

		活動したことがあり、今後も続けたい	活動したことはないが、機会があれば活動したい	活動したことがあるが、今後は活動するつもりはない	活動したことはなく、今後も活動するつもりはない	その他	不明	合計
		5年未満	回答数 15 割合% 7.9	90 47.4	7 3.7	69 36.3	6 3.2	3 1.6
5年～10年未満	回答数 7 割合% 9.1	54 70.1	1 1.3	13 16.9	-	2 2.6	77 100.0	
10年～20年未満	回答数 13 割合% 11.7	64 57.7	8 7.2	22 19.8	1 0.9	3 2.7	111 100.0	
20年～30年未満	回答数 34 割合% 19.4	79 45.1	7 4.0	43 24.6	3 1.7	9 5.1	175 100.0	
30年～50年未満	回答数 27 割合% 15.3	89 50.3	17 9.6	34 19.2	4 2.3	6 3.4	177 100.0	
50年以上	回答数 13 割合% 20.3	32 50.0	2 3.1	10 15.6	2 3.1	5 7.8	64 100.0	
不明	回答数 5 割合% 21.7	9 39.1	-	5 21.7	-	4 17.4	23 100.0	

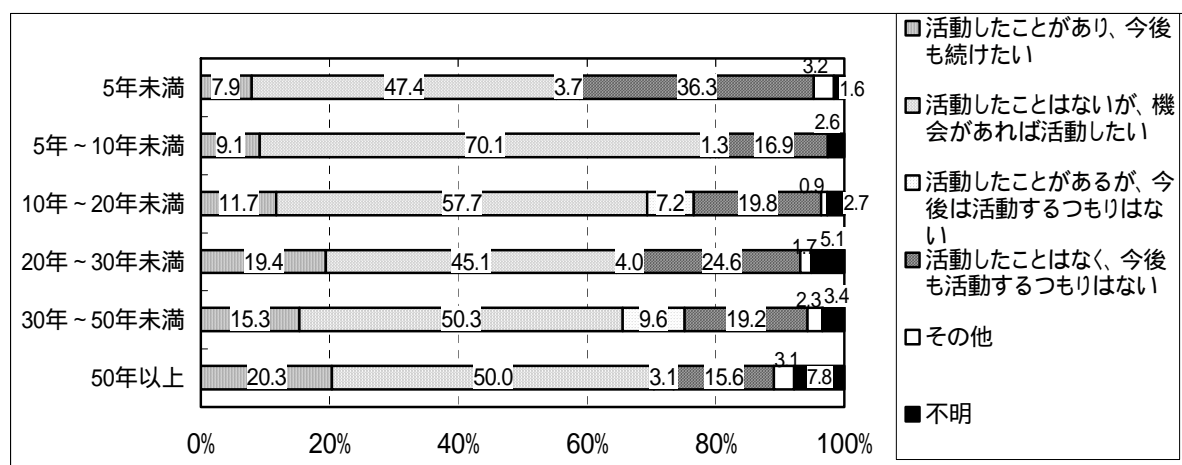


表9-3 市民活動(NPO、ボランティア等)への参加状況(年代別)

		活動したことがあり、今後も続けたい	活動したことはないが、機会があれば活動したい	活動したことがあるが、今後は活動するつもりはない	活動したことはなく、今後も活動するつもりはない	その他	不明	合計
		回答数	割合%	回答数	割合%	回答数	割合%	回答数
20代	回答数	8	50	3	40	1	1	103
	割合%	7.8	48.5	2.9	38.8	1.0	1.0	100.0
30代	回答数	11	65	6	49	4	1	136
	割合%	8.1	47.8	4.4	36.0	2.9	0.7	100.0
40代	回答数	18	87	7	39	1	3	155
	割合%	11.6	56.1	4.5	25.2	0.6	1.9	100.0
50代	回答数	32	100	9	25	3	5	174
	割合%	18.4	57.5	5.2	14.4	1.7	2.9	100.0
60代以上	回答数	39	107	15	36	7	17	221
	割合%	17.6	48.4	6.8	16.3	3.2	7.7	100.0
不明	回答数	6	8	2	7	-	5	28
	割合%	21.4	28.6	7.1	25.0	-	17.9	100.0

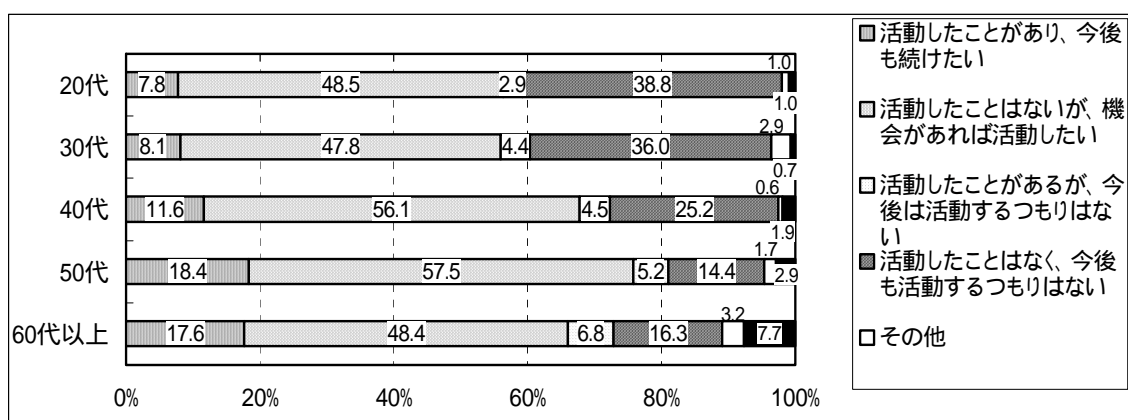
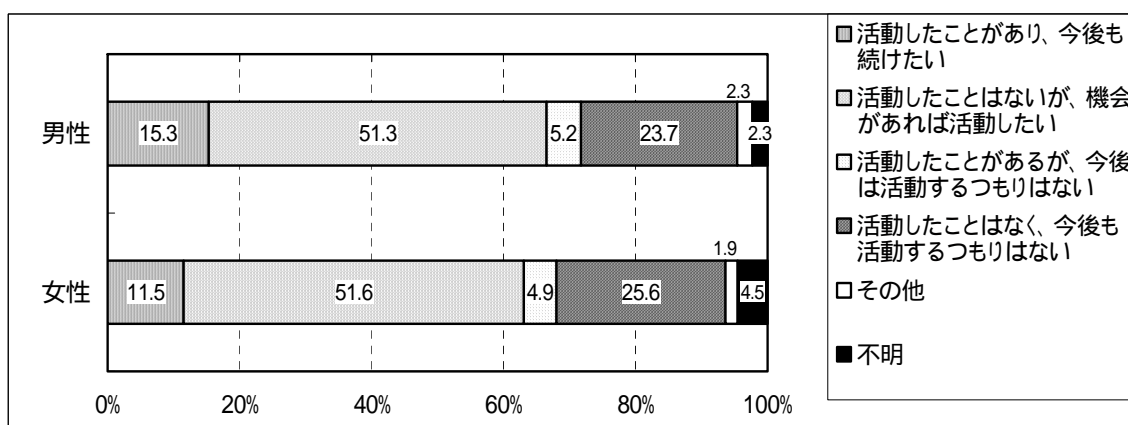


表9-4 市民活動(NPO、ボランティア等)への参加状況(男女別)

		活動したことがあり、今後も続けたい	活動したことはないが、機会があれば活動したい	活動したことがあるが、今後は活動するつもりはない	活動したことはなく、今後も活動するつもりはない	その他	不明	合計
		回答数	割合%	回答数	割合%	回答数	割合%	回答数
男性	回答数	47	158	16	73	7	7	308
	割合%	15.3	51.3	5.2	23.7	2.3	2.3	100.0
女性	回答数	49	220	21	109	8	19	426
	割合%	11.5	51.6	4.9	25.6	1.9	4.5	100.0
不明	回答数	18	39	5	14	1	6	83
	割合%	21.7	47.0	6.0	16.9	1.2	7.2	100.0



6. どのような市民活動がしたいか

1) どのような形で市民活動を行いたいのか

- ・「区・組などの地域活動に参加する」が47%で最も多かった。
- ・次いで「ボランティア団体やNPOの活動に参加する」が41%であった。身近な団体の活動に参加したいという意向が高いようである。

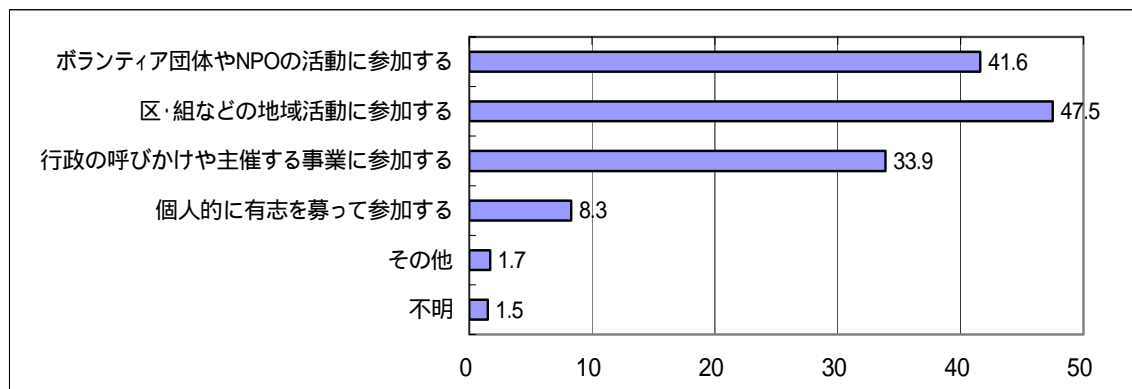
2) どのような分野で活動したいか

- ・「自然保護・環境保全」が37%で最も多かった。
- ・次いで「高齢者福祉」が31%、「子育て支援」22%、「スポーツ・健康づくり」21%、「リサイクル・ごみ問題」20%などが多かった。

表10 どのような形で市民活動を行いたいか (複数回答)

	回答数	割合%
ボランティア団体やNPOの活動に参加する	221	41.6
区・組などの地域活動に参加する	252	47.5
行政の呼びかけや主催する事業に参加する	180	33.9
個人的に有志を募って参加する	44	8.3
その他	9	1.7
不明	8	1.5
合計	531	100.0

「今後も活動したい」「機会があれば活動したい」と回答した531人の集計



【その他の回答】

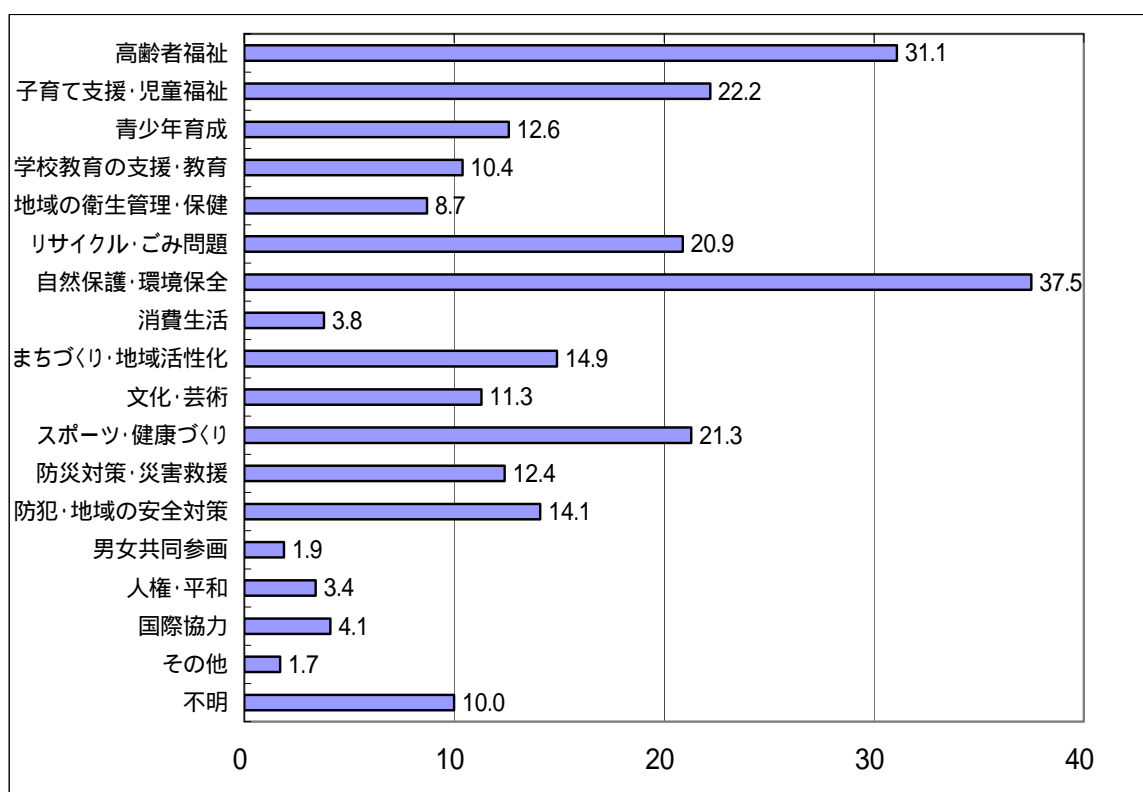
- ・内容次第 ・男女共同参画社会
- ・職場での活動 ・呼ばれれば参加する。定年過ぎたら何らかの手伝いをしたい
- ・個人でホスピスでの患者のお手伝い。例えば話し相手、マッサージ、買い物など
- ・協力はするつもりだが、どの様にするか考えていない
- ・いい友と感じてあらゆる事が可能なら参加する

表11 どのような分野で市民活動を行いたい

(複数回答)

	回答数	割合%
高齢者福祉	165	31.1
子育て支援・児童福祉	118	22.2
青少年育成	67	12.6
学校教育の支援・教育	55	10.4
地域の衛生管理・保健	46	8.7
リサイクル・ごみ問題	111	20.9
自然保護・環境保全	199	37.5
消費生活	20	3.8
まちづくり・地域活性化	79	14.9
文化・芸術	60	11.3
スポーツ・健康づくり	113	21.3
防災対策・災害救援	66	12.4
防犯・地域の安全対策	75	14.1
男女共同参画	10	1.9
人権・平和	18	3.4
国際協力	22	4.1
その他	9	1.7
不明	53	10.0
合計	531	100.0

「今後も活動したい」「機会があれば活動したい」と回答した531人の集計



【その他の回答】

- ・ 地域に在住する外国人の生活支援
- ・ 障害者福祉の分野
- ・ 市内の農産品の有機化
- ・ 食の安全

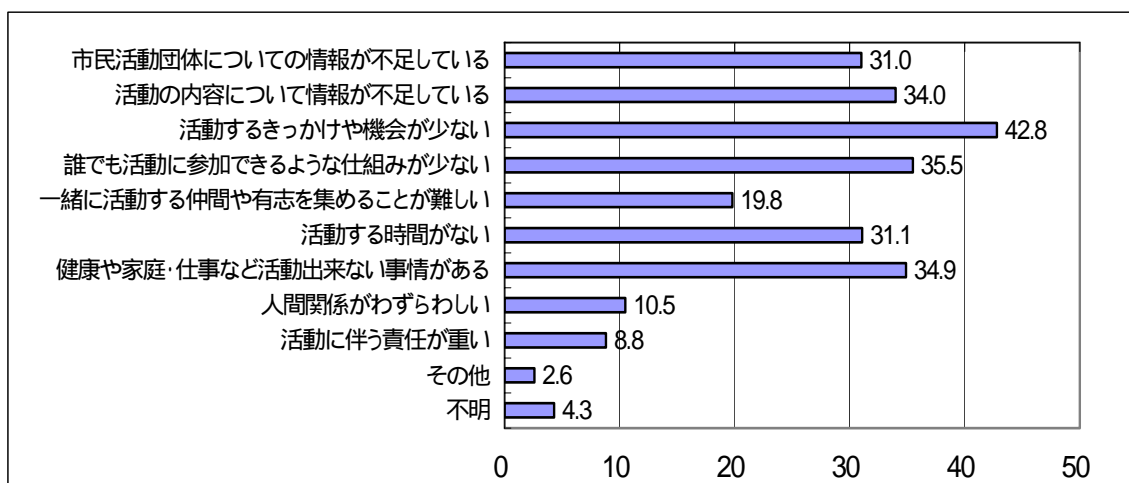
7. 市民活動の問題点

- ・「活動するきっかけや機会が少ない」が42%で最も多かった。
- ・次いで「誰でも参加できるような仕組みが少ない」35%、「健康や家庭、仕事など活動できない事情がある」34%、「活動の内容について情報が不足している」34%が多かった。
- ・活動したくても、きっかけや場がない、参加の仕組みがないこと、そして情報不足がネックになっているようである。

表12 市民活動の問題点

(複数回答)

	回答数	割合%
市民活動団体についての情報が不足している	253	31.0
活動の内容について情報が不足している	278	34.0
活動するきっかけや機会が少ない	350	42.8
誰でも活動に参加できるような仕組みが少ない	290	35.5
一緒に活動する仲間や有志を集めることが難しい	162	19.8
活動する時間がない	254	31.1
健康や家庭・仕事など活動出来ない事情がある	285	34.9
人間関係がわずらわしい	86	10.5
活動に伴う責任が重い	72	8.8
その他	21	2.6
不明	35	4.3
合計	817	100.0



【その他の回答】

- ・駐車場がない・少ない ・活動場所の確保 ・リゾートマンションな為、地域活動の情報がない
- ・託児有りの活動が少ない ・新人に対して適切な指導がされない為、長続きしない
- ・情報が遅く切が早い。広報紙などの配布も遅く掲載時には切後だったりする
- ・地元意識が強くよそから来た人が参加しにくい ・市民の意識が低い
- ・地域内の横の繋がり・縁故関係が強く、少し違うことや新しいことに対して消極的・閉鎖的。
- ・地域により同じ活動でも同じ意味にならない。地域性や活動についてもっと考慮すべき
- ・行政の支援が弱く、金銭的支援になると殆ど提供してくれない
- ・御殿場の市民はNPOの意味が分かっていない人が多いが施設等の管理をしたがる
- ・リーダーの押しつけやそのグループで仕切りすぎる傾向がある
- ・ボランティアというと半強制的な要素が強く、ボランティアと聞くだけで身構えてしまう。自然とその輪が広がっていくシステム作りが欲しい。

8. 市民活動は地域づくりに役立っているか

- ・「ある程度役立っていると思う」が48%を占め、最も多かった。
- ・肯定的な意見が半数を超えたが、2割強の人が「あまり役立っていない」「役立っていない」という回答であった。
- ・年代別に見ると、20代～30代で「役立っている」と考えている人がやや少なく、「どちらともいえない」の割合が高くなっている。

表13 市民活動は地域の課題解決に役立っているか

	回答数	割合%
大変役立っていると思う	73	8.9
ある程度役立っていると思う	397	48.6
あまり役立っていないと思う	139	17.0
役立っていないと思う	44	5.4
どちらともいえない	130	15.9
不明	34	4.2
合計	817	100.0

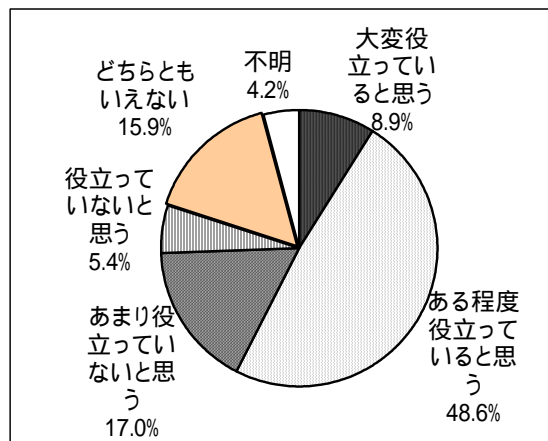
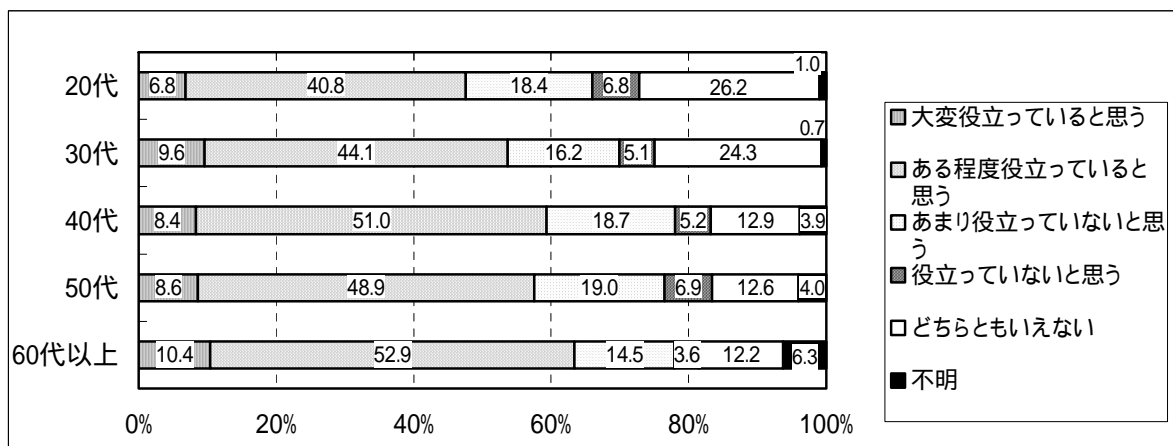


表13-1 市民活動は地域の課題解決に役立っているか (年代別)

		大変役立っていると思う	ある程度役立っていると思う	あまり役立っていないと思う	役立っていないと思う	どちらともいえない	不明	合計
		20代	7	42	19	7	27	
	割合%	6.8	40.8	18.4	6.8	26.2	1.0	100.0
30代	回答数	13	60	22	7	33	1	136
	割合%	9.6	44.1	16.2	5.1	24.3	0.7	100.0
40代	回答数	13	79	29	8	20	6	155
	割合%	8.4	51.0	18.7	5.2	12.9	3.9	100.0
50代	回答数	15	85	33	12	22	7	174
	割合%	8.6	48.9	19.0	6.9	12.6	4.0	100.0
60代以上	回答数	23	117	32	8	27	14	221
	割合%	10.4	52.9	14.5	3.6	12.2	6.3	100
不明	回答数	2	14	4	2	1	5	28
	割合%	7.1	50.0	14.3	7.1	3.6	17.9	100.0



9. 「協働」の認知度

- ・「全く知らない」が42%と最も多く、「あまり知らない」と合わせると、約8割が「協働」について認知していないことがわかった。
- ・「よく知っている」「大体知っている」を合わせると約17%であった。
- ・年代別に見ると、50代以上で認知度が高く、40代以下では低くなっている。
- ・居住年数別に見ると、年数が長いほど認知度が高い傾向が見られた。

表14 「協働」の認知度

	回答数	割合%
よく知っている	28	3.4
大体のことは知っている	113	13.8
あまり知らない	315	38.6
全く知らない	343	42.0
不明	18	2.2
合計	817	100.0

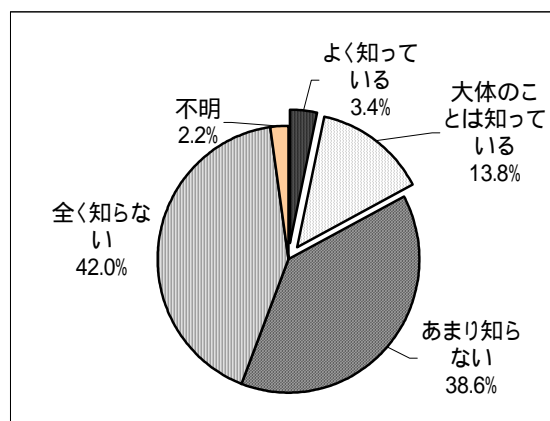


表14-1 「協働」の認知度(年代別)

		よく知っ	大体のことは	あまり知ら	全く知らな	不明	合計
		ている	知っている	ない	い		
20代	回答数	-	10	32	61	-	103
	割合%	-	9.7	31.1	59.2	-	100.0
30代	回答数	4	9	39	83	1	136
	割合%	2.9	6.6	28.7	61.0	0.7	100.0
40代	回答数	4	8	62	77	4	155
	割合%	2.6	5.2	40.0	49.7	2.6	100.0
50代	回答数	4	28	71	68	3	174
	割合%	2.3	16.1	40.8	39.1	1.7	100.0
60代以上	回答数	15	53	101	47	5	221
	割合%	6.8	24	45.7	21.3	2.3	100
不明	回答数	1	5	10	7	5	28
	割合%	3.6	17.9	35.7	25.0	17.9	100.0

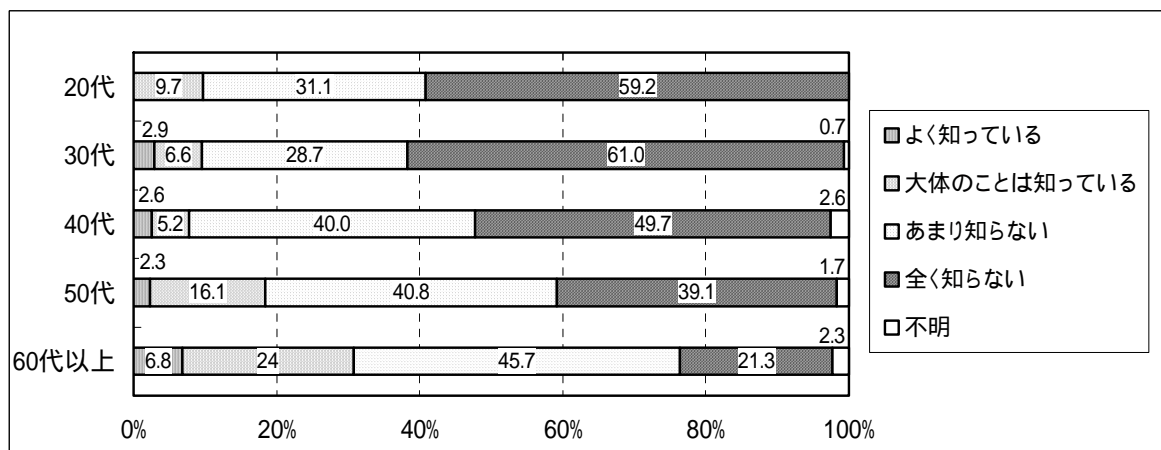
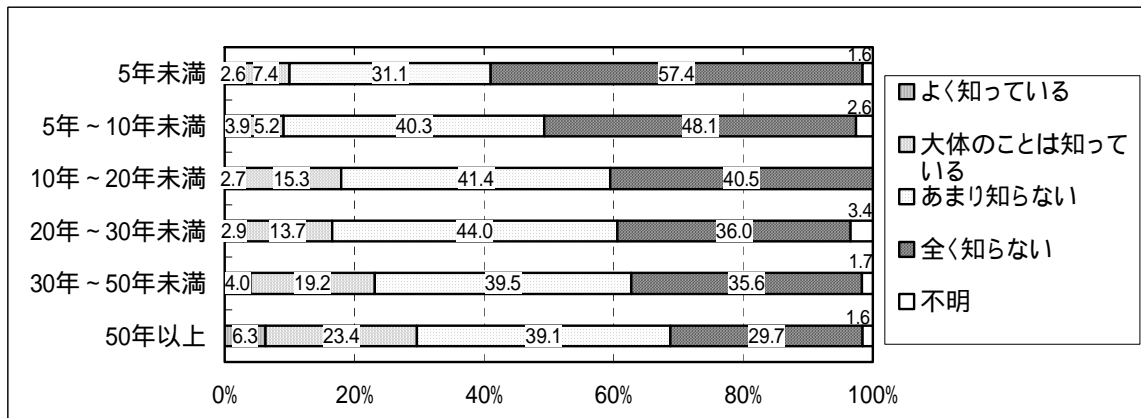


表14-2 「協働」の認知度(居住年数別)

		よく知っている	大体のことは知っている	あまり知らない	全く知らない	不明	合計
5年未満	回答数	5	14	59	109	3	190
	割合%	2.6	7.4	31.1	57.4	1.6	100.0
5年～10年未満	回答数	3	4	31	37	2	77
	割合%	3.9	5.2	40.3	48.1	2.6	100.0
10年～20年未満	回答数	3	17	46	45	-	111
	割合%	2.7	15.3	41.4	40.5	-	100.0
20年～30年未満	回答数	5	24	77	63	6	175
	割合%	2.9	13.7	44.0	36.0	3.4	100.0
30年～50年未満	回答数	7	34	70	63	3	177
	割合%	4.0	19.2	39.5	35.6	1.7	100.0
50年以上	回答数	4	15	25	19	1	64
	割合%	6.3	23.4	39.1	29.7	1.6	100.0
不明	回答数	1	5	7	7	3	23
	割合%	4.3	21.7	30.4	30.4	13.0	100.0



10. 公共的な課題解決への「協働」の必要性

- ・「必要である」が57%と多くを占めていた。
- ・「大いに必要である」は17%、合わせると約74%の人が協働が必要だと回答している。
- ・「必要でない」という否定的な回答は少なかった。
- ・年代別に見ると、50代以上で「大いに必要である」の割合がやや高く、20～30代では「どちらともいえない」という回答がやや多くなっている。

表15 公共的な課題への対応のための「協働」の必要性

	回答数	割合%
大いに必要である	140	17.1
必要である	466	57.0
あまり必要でない	36	4.4
全く必要ではない	7	0.9
どちらともいえない	121	14.8
不明	47	5.8
合計	817	100.0

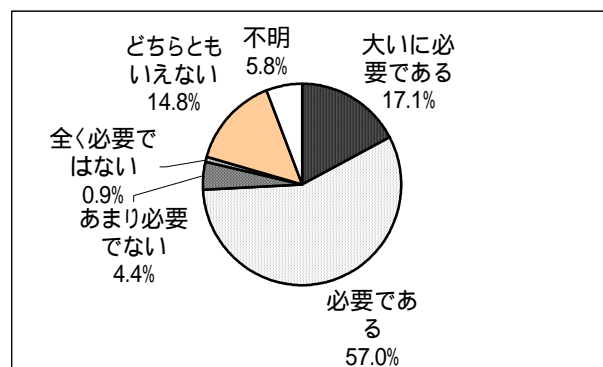
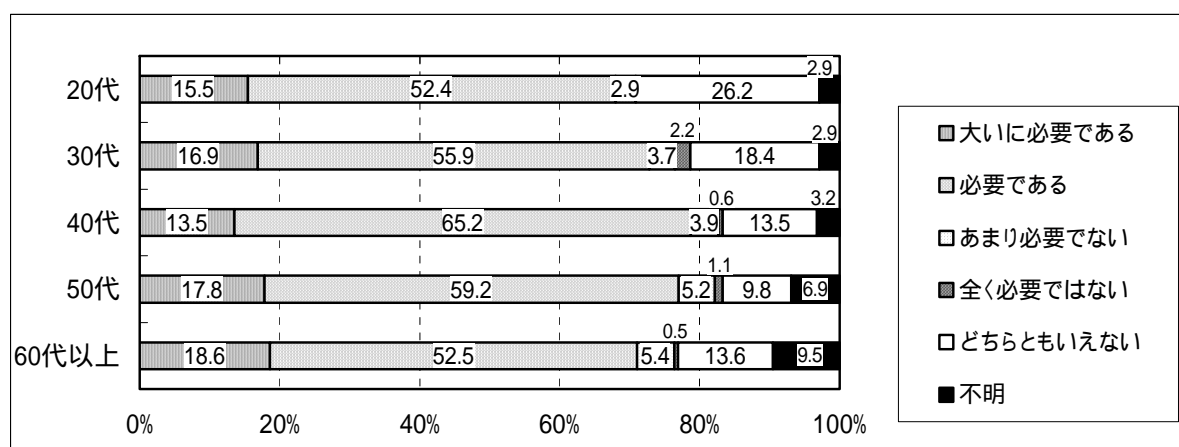


表15-1 公共的な課題への対応のための「協働」の必要性(年代別)

		大いに必要である	必要である	あまり必要でない	全く必要ではない	どちらともいえない	不明	合計
20代	回答数	16	54	3	-	27	3	103
	割合%	15.5	52.4	2.9	-	26.2	2.9	100.0
30代	回答数	23	76	5	3	25	4	136
	割合%	16.9	55.9	3.7	2.2	18.4	2.9	100.0
40代	回答数	21	101	6	1	21	5	155
	割合%	13.5	65.2	3.9	0.6	13.5	3.2	100.0
50代	回答数	31	103	9	2	17	12	174
	割合%	17.8	59.2	5.2	1.1	9.8	6.9	100.0
60代以上	回答数	41	116	12	1	30	21	221
	割合%	18.6	52.5	5.4	0.5	13.6	9.5	100.0
不明	回答数	8	16	1	-	1	2	28
	割合%	28.6	57.1	3.6	-	3.6	7.1	100.0



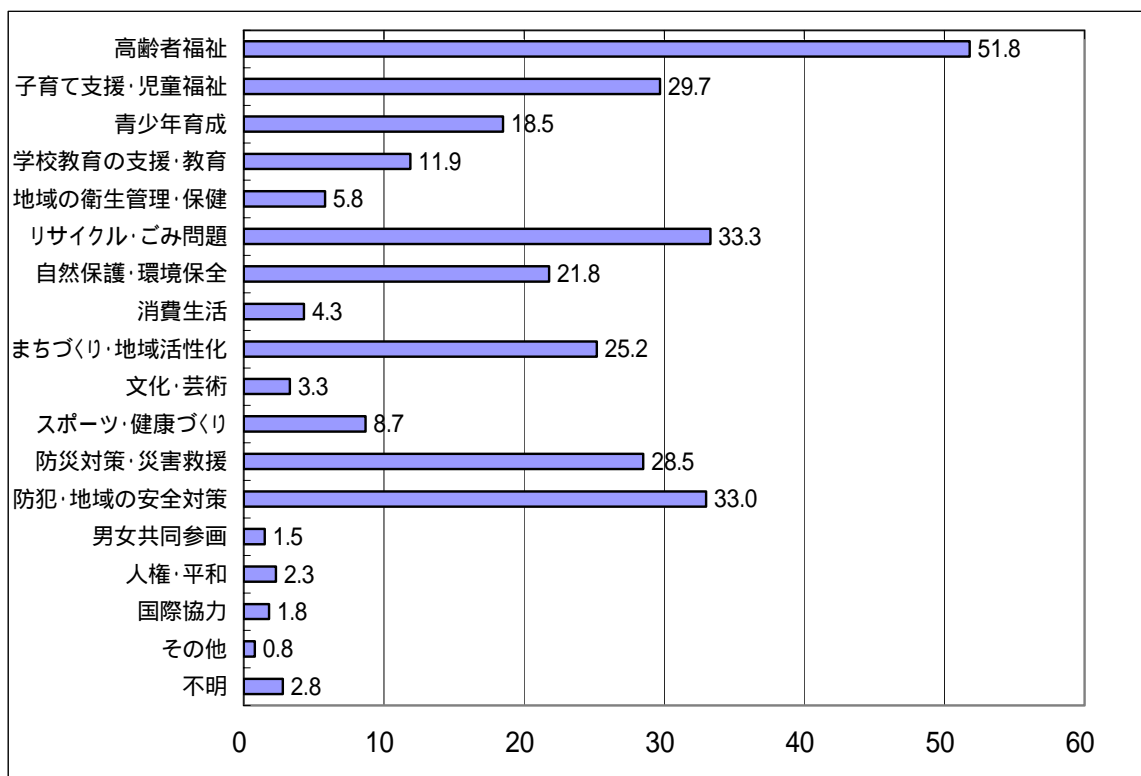
11. 協働の必要性が高い分野

- ・「高齢者福祉」が51%で最も多くの方が回答しており、協働の重要な分野になるものと考えられる。
- ・次いで「リサイクル・ごみ問題」33%、「防犯・地域の安全対策」33%、「子育て支援・児童福祉」29%、「防災対策・災害救援」28%が高かった。

表16 協働の必要性が高い分野 (複数回答)

	回答数	割合%
高齢者福祉	314	51.8
子育て支援・児童福祉	180	29.7
青少年育成	112	18.5
学校教育の支援・教育	72	11.9
地域の衛生管理・保健	35	5.8
リサイクル・ごみ問題	202	33.3
自然保護・環境保全	132	21.8
消費生活	26	4.3
まちづくり・地域活性化	153	25.2
文化・芸術	20	3.3
スポーツ・健康づくり	53	8.7
防災対策・災害救援	173	28.5
防犯・地域の安全対策	200	33.0
男女共同参画	9	1.5
人権・平和	14	2.3
国際協力	11	1.8
その他	5	0.8
不明	17	2.8
合計	606	100.0

協働について「大いに必要である」「必要である」と回答した606人の集計



【その他の回答】

- ・全部大切なことなので選べない
- ・障害者福祉
- ・市民が主体となった税の有効利用

12. 協働を進める上で行政に期待する点

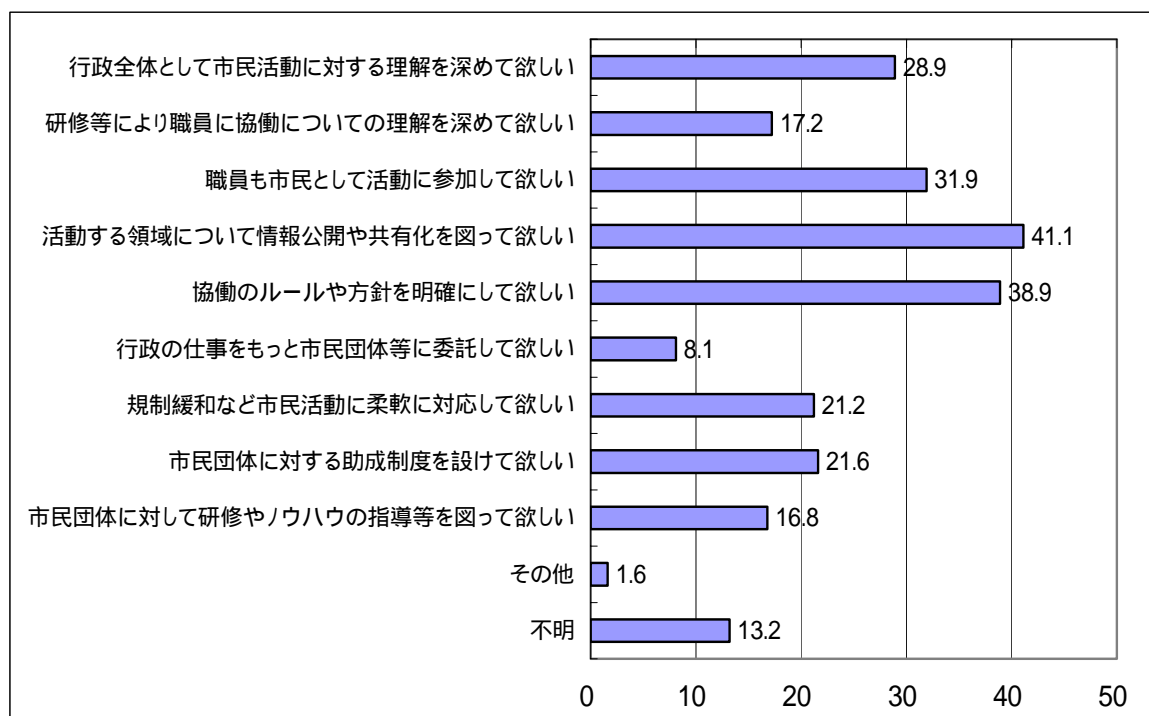
- ・「活動する領域について情報公開や共有化を図ってほしい」が41%で最も多かった。
- ・次いで「協働のルールや方針を明確にしてほしい」38%、「職員も市民として活動に参加してほしい」31%であった。
- ・情報公開や協働のルールづくりを行政に望む声が多いようである。

表17 協働を進める上で行政に期待する点

(複数回答)

	回答数	割合%
行政全体として市民活動に対する理解を深めて欲しい	224	28.9
研修等により職員に協働についての理解を深めて欲しい	133	17.2
職員も市民として活動に参加して欲しい	247	31.9
活動する領域について情報公開や共有化を図って欲しい	318	41.1
協働のルールや方針を明確にして欲しい	301	38.9
行政の仕事をもっと市民団体等に委託して欲しい	63	8.1
規制緩和など市民活動に柔軟に対応して欲しい	164	21.2
市民団体に対する助成制度を設けて欲しい	167	21.6
市民団体に対して研修やノウハウの指導等を図って欲しい	130	16.8
その他	12	1.6
不明	102	13.2
合計	774	100.0

協働について「必要でない」と回答した人を除く774人の集計



【その他の回答】

- ・不都合が生じた際には、改めるべきところは認め、柔軟に対応し、前例にとらわれずレベルを向上して欲しい
- ・地道な活動を確かな方法で続けて欲しい ・地域差別をなくして欲しい。現状平等に欠けている
- ・淡々と行うのではなく熱意を持って取り組んでもらいたい
- ・事業者に対して理解や参加を勧める説明をしてもらい、活動が円滑に行われるようにして欲しい
- ・見直しから市民活動の負担を縮小してほしい
- ・協働に関する現状と問題点を知りたい

注：表内番号はサンプル番号であり、個人を特定するものではありません。

13. 自由回答（テーマ別）

市民活動についての問題点

40	市民活動とは、具体的にどのような活動の事をいうのか理解できない。
88	手を挙げた人の負け(やる気のある人に責任、負担が集中する)という、風潮が市民活動の妨げとなっているように思う。
90	御殿場は、自然がまだ残っている良い街ですが、ゴミの散乱が気になる。市民活動等で何とかならないのか。
134	国全体としては、経済は上向きと言っても、低所得者や年金受給者にとっては、非常に厳しくゆとりのない状態。活動に参加したくとも出来ない状況である。誰もが平等に、心豊かに市民活動に参加できる工夫が必要。
371	土、日が仕事なので、平日で自由な時間に、参加できる活動があれば紹介して欲しい。
409	地域(区、組)の活動に、誰もが気軽に参加出来る環境が整っていない。ルール等が難しく、参加をためらう人もいる。ルールといった法の整備もさることながら、自由で気軽に参加しやすい企画をする必要がある。
464	半強制的な市民活動や協働なら、やらない方が良いと思う。間口を広くして情報を多くして、皆が自ら参加したくなるような活動が出来たらと常々思う。
485	他の市(三島市など)の情報を聞くと、良い活動仲間を誘って、楽しく(市の為、市民の為)活動していると云います。何か関わりたいとは誰もが考えていると思うが、実行する機会が見えない人が多いと思う。ぜひ機会を沢山考えて欲しい。市民活動は希望するが、家族に障害者(目)がいる為、収入が不足するので、働かざるを得ない。
502	地域活動の押しつけは、人を醜くするだけだと思う。市民、ボランティア活動については、個人的には、そっとする。表に出る人々が嫌いで、押しつけはつらいです。協働は必要ではあるが、プライバシーを大事にしない人が沢山いる。変にマスコミに影響されて、年長者を笑い者にしたたり、粗末にする人が多すぎる。年長者を大切にすることは、将来の御殿場の若者を大切にすることと同じ。何故なら皆、老人になるのだから。御殿場の人々は、他県の人から見て良い人が多いが、30代~40代くらいの人たちは??
527	区、組などの地域活動は、やりたい人がやればよいと思う。強制は良くないと思う。
537	御殿場地区体育振興会の活動は、全面的に見直しをお願いする。大会のために、区、組での地区大会出場選考で大変である。体育事業も目的があいまいで、区の事業で十分である。地域活動については、住民の地域活動については、実施の方向性しか考えていない。(縮小も含む。)住民主体のまちづくりは、縮小の方向で考えて欲しい。見直しから市民活動の負担を縮小して下さい。
592	長い目で見ると、今から少しづつ、市民活動へ参加したい気持ちは十分にあるが、現実には教育費の為、働くのがやっとで、心と時間の余裕がない。
615	家庭を持ち、仕事をしていると、自分の家族のことで精一杯で、なかなか地域の活動に参加できないが、子供を通して参加することが出来、同様の立場の人と活動を通じて交流が持てる。
678	休日を市民活動に使ってしまい、休日なのに疲れて月曜日が一番疲れている事のないようにして欲しい。もう少し無理のない活動行事を考えて欲しい。平日に活動する場合の理解、有給の活用等にもっと積極的になって欲しい。
708	地域活動の必要性は十分承知しているものの、不景気で仕事を休んでまでの活動が出来にくい。ともすれば市民活動のリーダー的存在になると、仕事の時間を削り、家庭をおざなりにするという事になりかねない。そのところの調和が大変難しい課題である。民間企業は特に厳しい。公務員ほどの時間的余裕は許されない現状にある。
769	区、組などの行事に参加するのは、役員になった年だけは、参加しますが、参加人数が少ないし中止を希望する人も多い。

807	消防団などの活動を見てみると、仕事を休んでの活動や行事が多すぎる。ボランティアの域を超えていると思う。仕事に差しつかえるような活動はおかしい。給料を貰っている消防署とは違う。土、日が、それに費やされる。
-----	---

市民活動への提案

18	参加者に苦痛な環境での活動を控え、楽しく日常的な運営が理想。個々の役割を少なく、軽く多数で取り組めるように。
28	婦人会活動で5年連続で役員をしているが、会員ではわからなかった活動の部分が、役員になって初めて活動の大切さを理解した。但し役員になった者だけが忙しく、活動の大切さを地域に広げることが難しい。どういう方法で活動の輪を広げるかで悩んでいる。団体には同じような活動団体が多すぎるので、団体活動を簡素化して各団体の交流を深めていった方が良いと思う。
93	市民活動を行うにあたって、活動する領域についての情報の提供や、窓口となる担当課との活動内容や、情報の共有化が必要だと思う。その為、何回かの打ち合わせの時間が必要だが、なかなかその時間的余裕がない。広報や回覧板、地域に掲示板を設置することにより、多少は、そういう問題も解決すると思われる。具体的にどうすれば市民活動を阻む諸問題を解決出来るか、実際に市民活動している方々に聞き取りしていくことが次の課題かと思われる。
135	市民団体等に登録しなくても参加できる様な事があれば、参加したい広報等で情報を提供できないのか。組織がしっかり出来ている団体に途中から参加することには、とまどいを感じる。
146	小さな子供がいても、参加できる市民活動を紹介して欲しい。
320	子育てサークル等をもっと作って欲しい。
338	もっと興味が湧く、楽しそうな市民活動があれば良いと思う。
403	現在、市民活動を経験していないが、高齢化社会になっていく未来に向けて、市民団体を中心に、どんな活動をしているか明確にし、本当に必要なのかどうかを見極めて、活動していったら良いと思う。
605	若い世代が、組、地域の活動に積極的に楽しく参加出来るように、地域になじむように、子供と共に親が出る行事が多くあると良いと思う。市民活動、ボランティア活動は、足が悪いけど活動できることがあれば参加したい。
665	市民活動をもっとオープン化したほうが良い。活動において古い人たちが権力を表し、新しい人が活動に馴染みにくい現状だと思われる。

協働の意味、必要性

25	協働の意味が今一理解できない。富士岡支所の人は、丁寧に教えてくれる。
84	協働の言葉の意味が理解できた。住むほどに御殿場の街が好きになり、美しい御殿場の為に、協働の活動に期待します。
170	ここ2~3年間で、協働という言葉が出てきた。行政の会合に出席した折には、一度も出てこなかったこと。非常に前進であり、続けて欲しい大事な事と思う。
47	高齢化、人口減少、財政の逼迫等から、市民活動や協働が、これから益々必要になってくると思う。
197	今回のアンケートを通して、改めて考えると、市民活動や協働というものは、主に中高年の方々の活動が多いのではないかと？若しくは若年の活動の場があったとしても私が、それを知らないのは、情報不足なのでは...と思う。結局市民活動や協働の意味が良くわからない。課題はなおさらわからない。
490	「協働」というワードにピンとこない。定着しにくいと思う。
677	協働なるものが、よくわからない。公共的課題を具体的に示して、質問なら意識の低い自分でもわかるのだが。

個人の意識改革

88	親の身勝手さが目に付く昨今、親のモラル向上が急務である。
151	市民1人1人が大きな輪になるよう底辺から意識を掘り起こして欲しい。
192	ボランティアする人は、いつも同じタイプの人になってしまう。個人の意識レベルが上がらないとスムーズな流れが出来ないと思う。
556	一番大切な事は「ふれあい」精神を進めていくべきと思う。
703	ボランティアをする事により人に対して優しくなれると思う。その優しさが色々の他に対しても広がり、人間1人1人が優しくなった時、心を痛めるような事件がなくなっていくのではないか。その為に多くの人がボランティアの機会があると良いと思う。(その他に、ボランティア活動する満足度もあると思う)

協働を進めるには

38	市の環境保全に、全住民が意識を高めることが必要である。その為には、ボランティア人口の増加を呼びかけ、それを機に老人が若者を善導し、長期計画により、住みよいまちづくりに、そして県下のリーダー市になるよう協力し合いたい。今回の様なアンケート調査機会を増やし、2~3回と回を重ねて欲しい。
98	企画や行事を考える人の中に一般の人(地位もなく、年収も少ない一般市民)が、どの位いるか。地域の名士や金持ち、優等生の人々の考えで、本当に参加して貰いたい人や、NPOの力を必要とする人の気持ちが、反映されていない気がする。本当の「市民協働型」まちづくりが出来ることを期待する。
140	市民の責任の明確化が必要。参加した市民及び行政の説明責任を明確化する。
167	日頃注意しているのは、防犯や安全対策。子育て支援や青少年育成、町、川の浄化など、人と人との触れあいから始まるので、地道に取り組み、成果を上げる活動が理想だと思う。まずは、リーダーの人材を発掘して、熱意を育てることが必要。
204	年数回(季刊など)市民活動や協働についてのPR誌の発行、各戸配布に力点を。活動報告、活動計画とそのため参加募集案内、協働のルールや指針の情報等。行政側だけでなく、市民団体自身による広報活動の推進を求めたい。
206	自分なら、何をやりたい、何をやりたくないといった情報を幅広い層(年齢、男女...etc)から収集し、それを基にした中期計画を立案、開示し、なるべく多くの賛同を得て実行する。ステップが必要では。ボランティアというと、半強制的な要素が強く、ボランティアと聞くだけで構えてしまうほう。もっと自由な参加の体制、自然にその輪が広がっていく方が良い。真の協働の内容なら大いに必要であるが、一部の人の名声や名誉のために利用されるのであれば(現実にはこの要素の強いものが多い)全く必要ではない。何でもそうだが、アンケートを取りまとめ、それに基づく抽象的な方針を述べて終わりではなく、本気で取り組むなら、先ず、プロジェクトを(行政、市民からなる)組み立て、中期計画立案、実施を図り、その実施を状況を十分分析、反省し、次の中期計画につなげる(P-D-C-A)輪を回してシステムが必要。
239	行政計画(例えば、地域福祉計画)の策定の際に、市民によるワーキンググループを設置し、より詳細な市民ニーズを把握して欲しい。
282	市民団体では浸透しない。地元企業などとの提携により、参加者、情報も増えるのでは?
286	行政と市民が気軽に協力しあえる場があれば、より豊かな市民生活が送れる。
348	市のホームページに、市民活動や協働という言葉が、目に付くようなコーナーを設け、市民がボランティア、NPO、地域の情報を得やすい様にする。自分は、今は活動に参加する時間的余裕はないが、IT化が進んでいる中、どんな活動があるか等の情報を、市民が得やすい状況を作ることが大切だ。管理が大変かもわからないが、このアンケートがその一歩になって欲しい。
387	行政と団体と各家庭とを、多方向で結ぶネットワークというインフラが必要となり、この仕組みを利用し、市民活動や協働における需要と供給の情報を流通整理することにより、より多くの人の参加を効率的に行えるのではないか。

392	昭和30年代は、新橋の神社で市民そろって御殿場踊りなどした。地区別で夏祭り等に御殿場音頭などを皆で踊っては？日本一の富士山を利用して、世界にPRをもっとすれば。
441	行政に関わっている人は、休暇等取りやすい環境で、土、日、祭日も休めるが、一般企業の方は、有給を取ることも難しく、職業によっては、土、日、祝日は仕事の人も多い。協働といっても参加も難しい人が沢山いる現実も、もっと考慮して欲しい。画一的な企画は、実施は困難だと思う。
531	個人により、協働には差があるのは当然。差別や区別をなくし広く門を開け、個人の出来る範囲で協力を募る。
545	10年も放置されている、遊休地等は開放されるべきで「協働」の対策として考えては？高齢者の畑作りに提供してはと思う。庁舎が手狭で工事中である。駐車場、大会議室等々を考えると、ホテル跡地を買収することは出来なかったのか？
593	小さなグループでは、ちょっとした会合でも、すぐ使える場所があると良い。又コピーなども何時でも使える場所があると良い。又町の中心にスクランブル交差点のような赤ちゃんから老人まで、健常者から障害者まで、買い物からボランティアから、その場所に行けば、人との交流が出来る建物があると良い。
573	まず、各住民の意見を定期的に(年1~2回)聴衆して、整理、分類して、公開して貰いたい。善し悪きに関わらず、出来る出来ないは、別にして、建設的な意見や、ネガティブな意見などもあるだろうが、こういった問題意識を市や住民で共有することで、地域の問題や活動への意識や興味が高まってゆくのではないかと思う。又「市民協働型」とは、何ぞや、というプランを文字通り、市民と協働で、当市のニーズにマッチしたビジョンを時間を惜しまずに造って欲しい。市民活動については、円滑に活動出来るように事業者の理解が必要だと思われる。住民全体のまちづくりとは、なにを指しているのか、市の構想と住民の思いやニーズとの間に、食い違いはないのだろうか？行政の思いと住民のニーズを時間をかけて調整して、実りあるプランを造るべきだと思う。
582	「協働」が実現するなら、皆が同じくらい参加できるように、例えば託児制度があったり、就業の軽減が可能になると良いと思う。交代で皆が参加出来るが良い。そうなれば意識が高まる気がする。
742	対物事項は、行政が中心となっても良いが、対人事項は、行政には無理で市民活動となる協働に於いて取り組んだ方が良い結果になると考える。
756	市民活動、協働についての情報が、我々にアピールが弱く個人差があると思います。市民が参加したいという気持ちになる展開をしたら良いと思います。

行政に望むこと

39	市民の為に、役所の方は、もっとサービス面を向上すべき。土、日曜日に役場の業務をするべき。働き税金を払っている市民の為に業務はすべき。もし出来ないなら民間へ業務も委託するべきだと思う。
50	市職員も各分野に積極的に参加し、市民に行政も協働に取り組んでいる様子を示して欲しい。
57	御殿場は、富士山のある街ということで観光の街のイメージがあるが、道路周辺の木を綺麗に刈り込んだり、花を植えたり、一番目立つのは雑草なので、市の職員が先立ってやって欲しい。
60	御殿場市の歩道、車道、通りやすい道路を考えて欲しい。
171	だから役人はと言われられないような役所、役人になって欲しい。私は一般市民と違うとでも思っているのか。互いにそう思っていれば、協働なんて出来ない。
188	協働化の浸透確度を高めるためには、市職員の1~2名は、県内外の一般企業への出向制度(1年間でも)を制度化できないか。複眼的に、よりよい市政を進めてゆくために市議会議員だけでは限度があり、又職員も甘さの排除。協働は、専門領域の異なる人々との交流により相乗効果が上がる。
202	具体的な例示して、市民協力型まちづくりは、何かを市民に示し、市がまず取り組む事を公表(公開)して欲しい。

216	「協働」の事よりも市役所や図書館等の不満をどこへ言えば良いのか。皆にはっきりわかるようにして欲しい。他県からの移転者にはこの市は住みにくい。
219	このアンケートに答えるまで、余り考えたことがない問題で、一般の人たちに、もっとアピールすべき。
231	行政は、市民が気軽に参加できるようサポートをして欲しい。
301	今後、高齢者社会が進む中、体育競技ではなく、何をやりたいか、何に参加したいかを、市政がもっと考える必要がある。例えば、高齢者が小中学生の運動会に参加するとか、レクリエーションに参加するとか、色々考えて欲しい。
365	市民活動といっても、現状では区や組の地域活動くらいしか思い浮かばない。市民自身では、これ以上の活動は困難と思われる。結局は行政がリーダーシップを取る必要がある。それには、当然市民の意志が反映されているもの。協働も良いが、市民をないがしろにしての協働は許されない。市民が主体となった税の使い道。現状は市民不在の感じがいなめない。あちこちで不要な道路工事が、多発しているのもその証拠。税の無駄使いというものだ。
426	現在、スポーツ関係で青少年の育成に活動したいと思っているが、市の体育課などに、スポーツの種類に精通する審判や指導者がかけている。国体等をやってみてわかったが、人気のあるスポーツは他の市に殆どが持って行かれている。もっと県に顔がきく太いパイプを持っている人材を配置したら如何か。
496	当市は、協働の流れが全く見えず、行政全体が文章や口だけでなく、職員も一市民として、もっと教育し直して、活動参加させなければ、社会全体の協働はあり得ないと思う。
516	市の企画した行事やイベントには、市民に協力を要請するが、市民グループ(ボランティア等)の企画したイベントや行事には、市は協力しようとしなない。無関心。これでは協働とはいえないのではないか。
530	色んな地域で困っていることが多いと思う。相談に行っても、曖昧な返事で帰されてしまう。もっと真剣に話を聞いて解決して貰いと市役所に望む。
548	例えば、トレイを収集しているのは、スーパーで、白色のみしか市は回収していない。ゴミを減らせは、市の言葉。根本的なことを市として実行していない。リサイクルせよと云っても市は言葉のみと云うことが実証されている。課題をクリアしない。そういう基本方針に対してズレがある発想の部分に、NPO又それぞれの市民に意見を、又構想を求める部分から始める必要があるのではないか。
569	行政のために、多額の税金を使っているのに、無駄な事に使わないで、有意義にお金を使って欲しい。リサイクルに対する意識や、子育ての支援(地域)等、行政でやるか、協働でやるかは、よく考えて欲しい。
648	現在も市議より財産区議員が上であり、市行政を平等化して欲しい。お願いします。
698	広報で、初心者教室との呼びかけで参加したが、初心者は誰もいないという経験をし、たった1人の初心者は辛い物がある。そのところを事務局の方で、もう少し気配りしていただければと思った。
726	平日は仕事があるので、行政の方でなるべく日曜日に出来る活動の計画を立てて欲しい。
740	御殿場駅から桜の木で埋め尽くして、歩道を美しく作り、ベンチを置くことで、駐車場が少し遠くても、さびれてシャッターの下りてしまった御殿場市内も目を覚ますのではないか? イギリスの古い村はベンチを人々が置いて、村を眺め、多くの観光客も来るそうだ。その村を市役所の人探して下さい。富士山、箱根を持つ御殿場をどうして、もっと美しくしないのか。
775	市民に協働についての理解を深めるノウハウや指導等、機会を設けて欲しい。

情報が少ない

58	現在、御殿場市に於いて、どのような市民活動や協働が行われているかが不明。もっと市民に情報提供して欲しい。興味のある活動があれば参加することも考えられる。
----	--

87	具体的に、市が現在どのような問題を抱えていて、市民にどのくらい協力して欲しいのか知りたい。又活動する市民団体も、その実体が関係者以外には知られていないように思うし、参加するのも勇気がいる。団体自体も運営状態や(活動資金など)活動内容をオープンにして欲しい。
94	自分の現在の日常の中に、社会のことを考える機会は殆どない。会社と家の往復で、休日はスーパーに買い物に行くくらい。そんな人間が市議会議員の選挙で一票を入れると言っても、誰に入れるか判断が困難。全く情報が無い。どの候補者が、何をしようとしているのか、情報が少ない。御殿場市をどういう方向に持っていくのか、市民と行政の間には、すごい高い壁があるようだ。高齢化、少子化に市がどのような考えを持っているのか、市民に伝える必要がある。市議員の人たちが、どのような活動をしているか、市民に良く理解でき、分かりやすい行政を望む。
107	集合住宅へ転居してきたばかり、全く情報が入ってこないで、全てにおいて、非常に困っている。地域で何をするのか、地震の避難場所は?集合住宅では回覧板も回ってこない。何とか改善して欲しい。全く情報がなくて不便です。
141	市民全般について、ボランティア活動に、現在どのようなボランティアが必要か情報の公開がない。
168	一般に市民活動は他人事です。もっとこういう活動をしているサークルがあると、知らせて欲しい。
182	転居して一年未満のため、活動についての情報もよくわからない。広報等は目を通してはいるが、途中からなので不明な部分が多い。もう少し情報提供の場があると良いと思う。
258	集合住宅の住民に対して、各種の地域行事への呼びかけが少ない。情報不足では。
294	どのような市民活動か、それは、どのようにして参加できるかを、もっと知らせて欲しい。住民への呼びかけ、無理のない範囲で参加できる所から、参加できる形を作って欲しい。気持ちがあっても二の足を踏んでいる人たちの、背中を押してくれるような。
310	集合住宅者には、広報も届かない。市民活動等については、広報がこないで何もわからない。
319	賃貸住宅に住んでいるので、市の情報誌が届かない。市の情報について把握することが出来ない。市役所を利用したくとも、土、日、祝日休みでは利用できず、市から益々足が遠のく一方。
344	協働という言葉を知った。広報で活動の様子を読み、参考にしている。幼児がいるので子育てに興味があるが、もっといろいろなグループの情報が欲しい。以前の住まいでは、障害者に対して、主婦が色々な形で参加していた。情報がごく一部の人にしか入って来ていないのでは。もっと気軽に情報が得られ、皆で携われると良いが。
561	「広報ごてんば」などを読んではいるが、今いち市民活動、協働の内容が伝わってこない。もっとインパクトがあると良いと思う。特に自分のように、このような活動に興味を示さない若者を、どんどん引き込むようにしたほうが良いと思う。
710	私が以前住んでいた地域よりも、積極的に情報を提供して戴いていると思う。若者は他者との関わりを求めているが、初対面時、どう話してよいか困惑する傾向があると思う。知らないことを気軽に聞ける受け皿が欲しい。
717	「市民活動」「協働」といった言葉を普段は目にすることがないので、もっと情報を提供した方が良い。
761	気負う事なく、楽に市民活動、ボランティアに参加できるような工夫が出来ると良いと思う。何処で、どんな活動をしているか、自分が参加するにはどうすれば?細かい情報が欲しい。

御殿場の地域性の問題

77	他県からの転居者には、御殿場市の区、組、組織の有り様、財政のカラクリが非常に理解しがたい。もっとオープンに公平感のある組織体の上に、市民活動を作り上げていくべきだと思う。
395	区、組にリーダー格(古くから住んでいる住民)が役員だと、参加したくとも、仲間内で新住民が中に入れないような環境を作る人が多いと思う。
454	昔から続いている行事など、新しい転入者には金銭面等で負担になることがある。未来に向けて、ここで改革をしていけば、住みよい御殿場になると良いと思う。

484	地域活動に於いては、古参が新人を広く受け入れて欲しい。当地域では、年配者が子供に太鼓など良き伝統を指導して貰っている。子供を通して地域に入りやすい。まちづくりに関しては、市はルールの大筋を決め、あとは地域に任せて口出ししない。富士、富士宮に比較すると、地域活動は充実して、とても良い町だと思う。市営グラウンド(東、南)の根本的な整備、グラウンド(東、南)観客席(南)設置、他市町村を招いた際、肩身が狭い。駐車場(台数)の不足、スポーツ活動を通じて、他の市町村に比較して当市は貧弱すぎる。
490	他県からの転入者だが、御殿場の環境は素晴らしいが、「市」には、ガッカリした。閉鎖的な感じがする。まちづくり活性化の為には、地元出身者のみならず、転入者の意見も聞いて欲しい。
525	色々の分野で活動するには、地域内の人たちに問題がある。区、組、地域等、本当に使える人、物事を理解できる人を選ぶべきで、屋号とか旧家だとか、働ける人が出にくい状態が度々ある。
591	転住者にとって、御殿場はまだまだ閉鎖的な気がする。区とか組もピンとこない。活動したいと思っても、きっかけや活動の場がないということが大にあると思う。情報の提供や活動の場を作るなど、行政も一緒になって市民運動を進めることが必要だと思う。特に地域に根ざしていない集合住宅に住んでいる住民は、実際には、どこの組にも属していないということがある。区、組だけに頼らず、行政も新住民の把握、活用をすべき。
702	現、住まいの玉穂地区の中でも、特に私が住む組は、近所つき合いが乏しいので、個人々の考えが優先されてしまい、必要性を理解していない人が多くて困る。このような事では、大災害がきた折りに、大変困ると思うので、もっと協力できる様な関係を作りたい。
774	学校等行っていると、親として学校にどんなことが協力できるかと、子供と奉仕活動など参加しますが、御殿場生まれの御殿場育ちの私は、市民として何も活動したことがない。どの地区でも昔ながらに住んでいる旧家の人々は住みやすいと思うけど他所から越してきたりすると地域にとけ込みづらいと思う。災害等がおきたとき、このようではどうなるか？
806	萩原(永原)の地区の年齢の高い層の人たちは、教育問題(子供と関わり合い)に対して非協力的である。子供のいる家庭、いない家庭の相互理解できなければ、市民活動は出来ないと思う。
402	当市では、市民活動をしているグループの姿、成果が見受けられない。以前住んでいた町では、市民団体の存在感が大きく、実力が有り、成果を感じることが出来た。市民団体の力は大きいので、生かし方次第。区、組という組織の強固さは、良い面、悪い面があり、市民活動の自由な発想、柔軟さ等、行政では、なしえない活動が出来る部分をもっと評価すべきだ。市民活動が成熟している町は、「市民が主役」という意識が浸透しており、活気がある。区、組という旧態のままでは、流入市民や若年層の取込は難しい。もっとユニークな発想を大胆に導入して欲しい。住んでいて面白味に欠けるというのが正直な思い。イヤないい方をすれば、田舎臭い組織のある町。
795	協働の考え方には賛成であるが、地域社会の構造(共働き、土、日出勤、高齢化、賃貸住まい、集合住宅住まい等)もそれぞれ異なる。役員及び行事参加者は、高齢者が多く同じ顔ぶれである。集合住宅、賃貸住人は、殆ど関心がない。

高齢者の参加

68	体力もあり元気で健康な老人で、暇のある人が沢山いると思う。老人(高齢者)でも元気な人は、地域活動に参加し、体力がなくなった折りに、ボランティアのお世話を受けられる制度を確立して欲しい。ボランティアをした分は、チケット等での証明があればよい。老人にとっても、やりがいがあると思う。自分の将来に不安を感じながらも、夫は無償のボランティアに励んでいる。
254	健康な高齢者の、市民活動の場を拡げて欲しい。
467	65歳以上の方が、5人に1人の割合に、日本も超高齢化が進んでいる。老人がいかに健康で、日々生活できるか各地域での健康作り、福祉の分野に参加したい。
751	最近定年退職後、家にいる人が多くなってきたので、誰もが参加出来るウォーキング等で気軽出来る事があれば良い。
781	近所には退職後、健康で時間がある人が多くいるが、終日テレビなど見て過ごしているの、この年齢層が活動の役に立ちたいと考えているが、リーダーがいらない。月に1度とか活動する場所があれば参加したい。

63	60代後半のため、家族を守りながら市民活動、協働に参加出来たら嬉しい。
185	現在は仕事があるが、定年後は、余生を楽しみながら、身近なことから（児童の登下校時の安全確認等）始めたいと考えている。
676	市民活動については、現在は仕事があるが、平成17年9月に退職する予定なので、健康であれば活動に参加してゆきたいと思っている。

子供や青少年の教育

199	昔と違い、今は自分のことだけと、いう人たちが増加し、何につけても見て見ぬふりが多い。もっと若い（幼い）うちからの、青少年育成が重要に思う。そして女性の働く場や、それを取り巻く環境も変えて欲しい。
265	現在、青少年への教育の不足からか、躰が出来ていない。まず教育者自身の教育から始めないと、青少年育成は出来ない。教育者は地域の住民に挨拶が出来ない、行事に参加しない。教科書先生ともいう、教育者の再教育が必要。それが良い人間を作り出す一歩である。
507	御殿場へ転入1年目。近所つき合いも少しづつ出来てきた。もっと積極的に頑張りたいし、地域活動も2～3回位参加したが、もう少し活動する機会があれば、近所つき合いも深まると思う。「協働」という言葉を知らなかったが、勉強になった。現在、子育て中なので、児童福祉には特に力を入れて欲しい。長泉町のような環境であれば、子供も増えていくと思う。

高齢者福祉・障害者福祉

681	高齢者福祉に対して、もっと、もっと住みよい町に願う。市民病院が欲しい。
684	高齢者福祉の分野について、マスコミで知ったのですが、他の自治体では施設等でのボランティア活動参加に、点数にして後に自分が介護を受ける身になった時に、その点数に関してのサービスが受けられるという内容の様な事がされている。当市も良い考えは検討して欲しい。大家族は昔の話になってしまい、よぼよぼで今にも崩れ落ちそうな老人達の姿は、学童期の子供等の目に触れられず、思春期に突入していくのは淋しいと思う。
452	今回に該当する意見ではないかも知れないが、高齢者、身体障害者、福祉の分野では、少しずつ取り組みされている気がするが、知的障害児（者）に対する理解対策は、まだまだ多くの人が水面下で頑張っている。具体的にどう目を向けたいのか、声を聞き入れて欲しい。
436	障害者が参加出来るようにして欲しい
368	弱者にもっと声をかけ、健康な人と一緒に活動できる場を作って欲しい。この町には、それが欠けていると思う。

協力したい

72	御殿場に転居して2ヶ月、自然が沢山残っており、素朴な人柄の住民の皆さんと雄大な富士山に見守られ、心地良く暮らせる、この雰囲気を残しつつ、より住み良い御殿場作りに期待し、出来る範囲で協力したい。
159	協働については、私自身、健康の時は、何か(ボランティア)をしたいと思っている。しかし、何の資格もない自分に何が出来るか決められない。
339	千葉からの転住者で、賃貸住宅住まいの者、家主が御殿場の市民でないので、地域活動等は何もわからない。外国人も多く、誰もが住める市だと思ふ。皆で協力し合いたい。
693	強制的に回ってくる組の役員や、学校の役員を何度かやり、役員の仕事は大変ですが、協働がどのようなことか分かりませんが、市民として協力できることはやりたいと思う。
340	子供から高齢者まで参加し、市の活性化につながる事業は、どんどんやった方がよい。財政の軽減にも役立つ。老人は人生の達人であり知恵がある。潜在能力を活かす活動の場を与えた方がよい。活動を通して人格形成にもつながると思う。困難に立ち向かえるような精神を、市民1人1人に植え付ける事が先決だと思ふ。
37	御殿場市内の美容室から、児童、老人施設へのチャリティカット等を数ヶ月に1度でも、定休日に集まり施設で交流を深める。以前の住まいの富士市で、そういうボランティアに参加していた。

242	自分たちの日常では、なかなか外に目がいけないが、地域活動など身近な事に少しは参加しているが、今後はもっと外に目を向けたい。
11	市民活動への関心はあるが、なかなか最初の一步が踏み出せない。仕事が忙しいのも確かだが、もっと積極的に関わっていききたい。

アンケートについて、その他

429	このアンケートの内容では、市民活動や協働が具体的にどのような活動をしているか書いてないので答えは拒否。
232	市民活動や協働の意味は、何となく理解できますが、具体的にどのような街づくりか、イメージが湧かない。他の街での実際の活動などの、実例を盛り込めば、アンケートに答えやすい。街作りは、おもしろいと思うので是非、実現して欲しい。
91	街作りに関する市民意識調査なら、もっと市民に身近な設問及び、直接まち作りに関係する設問等を提起して欲しい。尚、地域住民が困っていること、望んでいること等を望む。
300	この調査には、福祉関連がない。市はもっと関心を持って欲しい。特に老人医療費についてもっと考えて欲しい。
667	事業者はサービスを適正な価格で提供できれば良い。行政は事業者を選別することが仕事で、協働すべきではない。
671	火防隊を賃金制にするか廃止して欲しい
672	市民活動や協働だけが、市民の問題を解決する主要な手段なのか。疑問を感じる。

市民協働型まちづくりに関する市民意識調査

【回答のご注意】

回答は、この用紙に直接記入してください。
 同封の封筒で、**10月8日(金)**までにご返送ください。
 調査内容に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

調査受託機関：(株)ダイナックス都市環境研究所 03-3580-8221
 担当 福嶋、山本 (yamamoto@dynax-eco.com)
 調査主体：御殿場市企画部地域振興課 0550-82-4308
 担当 鈴木、池田 (shinko@city.gotemba.shizuoka.jp)

フェイスシート（あなたご自身のことについておたずねします）

1. お住まいの地域 御殿場 富士岡 原里 玉穂 印野 高根
2. 御殿場市に何年住んでいますか（居住年数）
 5年未満 5年～10年未満 10年～20年未満
 20年～30年未満 30年～50年未満 50年以上
3. 年齢 20代 30代 40代 50代 60代以上
4. 性別 男 女

地域活動について

5. あなたは、区・組などの地域活動にどの程度参加していますか。当てはまるものを1つ選んで をつけて下さい。
 よく参加する
 たまに参加する
 ほとんど参加しない
 参加したことがない
 活動がない、知らない
6. あなたは、住民が地域活動に参加したり、地域の問題を自主的に解決していくためには、どのようなことが大切だと思いますか。当てはまるものを3つまで選んで、 をつけて下さい。
 普段からの近所づきあいを深めること
 住民一人一人が意識を持つこと
 地域活動のリーダーがいること
 若年層の参加を増やすこと
 地域活動の情報を積極的に住民に提供すること
 区・組などの地域組織の運営をもっとオープンにすること
 住民が参加しやすい行事やイベントを開催すること
 市がもっと活動を支援すること
 その他（ ）

7. 各地域で、住民主体のまちづくりを進めていくためには、市全体としてどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものを2つまで選んで、をつけて下さい。

- 区・組などの地域組織への参加を増やし、組織の基盤を強化する
- 区・組などの地域組織以外の、市民団体、NPO(*)などの活動を活発にする
- 区・組などの地域組織と市民団体やNPO(*)との連携を図る
- 地域のリーダーの育成や、まちづくりの担い手となる人材を増やす
- 行政と住民、地域組織との関係について、原則やルールを定める
- 行政が区・組などの地域組織の支援や育成を図る

(* N P Oとは、ボランティア団体など非営利活動団体の総称です。)

ボランティア活動、市民活動について

8. あなたは、地域活動以外のボランティア活動、NPO活動などの市民活動をしたことがありますか。

- 活動したことがあります、今後も続けていきたい (質問9へ)
- 活動したことはないが、機会があれば活動したい (質問9へ)
- 活動したことはあるが、今後は活動するつもりはない (質問11へ)
- 活動したことはなく、今後も活動するつもりはない (質問11へ)
- その他 ()

質問8で、、と回答した方にお聞きします。

9. どのような形で活動をしたいですか(または、していますか)。当てはまるものをつけて下さい。(複数回答可)

- ボランティア団体やNPOの活動に参加する
- 区・組などの地域活動に参加する
- 行政の呼びかけや主催する事業に参加する
- 個人的に有志を募って活動する
- その他 ()

質問8で、、と回答した方にお聞きします。

10. どのような分野で活動をしていきたいですか(または、していますか)。当てはまるものをつけて下さい。(複数回答可)

- 高齢者福祉の分野 子育ての支援や児童福祉の分野 青少年育成の分野
- 学校教育の支援など教育分野 地域の衛生管理や保健分野
- リサイクルやごみ問題などの分野 自然保護や環境保全の分野
- 消費生活の分野 まちづくりや地域の活性化に関する分野
- 文化や芸術の分野 スポーツや健康づくりの分野
- 防災対策や災害救援などの分野 防犯や地域の安全対策に関する分野
- 男女共同参画に関する分野 人権や平和に関する分野 国際協力の分野
- その他 ()

ここからはすべての方にお聞きします

1 1 . 市民活動（ボランティア活動、NPO活動）をする上での問題点がありますか。当てはまるものを3つまで選んで、をつけて下さい。

市民活動団体についての情報が不足している

活動の内容について情報が不足している

活動するきっかけや機会が少ない

誰でも活動に参加できるような仕組みが少ない

一緒に活動する仲間や有志を集めることが難しい

活動する時間がない

健康や家庭、仕事など活動できない事情がある

人間関係がわずらわしい

活動に伴う責任が重い

その他（)

1 2 . あなたは市民活動が、地域の課題解決やよりよい地域づくりに役立っていると思いますか。

大変役立っていると思う

ある程度役立っていると思う

余り役立っていないと思う

役立っていないと思う

どちらともいえない

「協働」について

1 3 . 行政と市民、事業者が対等な立場で互いに協力・連携して、公共的な課題の解決や住みよい地域づくりに取り組むことを「協働」と言います。あなたは「協働」という言葉を知っていますか。

よく知っている

だいたいのことは知っている

あまり知らない

まったく知らない

1 4 . あなたは、公共的な課題への対応のために、「協働」が必要だと思いますか。

大いに必要である（ 質問15へ）

必要である（ 質問15へ）

余り必要ではない

全く必要ではない

どちらともいえない

